

越前市スポーツ施設再配置計画

平成26年3月

越前市教育委員会事務局

目次

第1 基本的な考え方	1
1 計画の基本事項	1
(1) 計画の背景	1
(2) 計画の対象	1
(3) 計画の位置づけ	1
(4) 計画の目標期間	2
2 課題の整理	3
(1) 利用者数及び年齢構成の変化	4
(2) 財政の見通し	5
(3) 施設の高経年化による維持更新費用の増大	6
(4) 施設の機能的水準の向上と併せた再配置（課題のまとめ）	8
第2 現状と評価	9
1 施設概要	9
2 施設の評価	10
第3 基本方針	16
(1) 国体開催に向けた重点的・優先的整備	16
(2) 機能の維持向上と施設の集約化、複合化及び機能移転による統廃合	16
(3) モニタリングによる計画保全	16
(4) 中長期的な視点での計画的な整備	16
(5) スポーツ施設の現状評価を考慮	17
(6) 庁内計画との整合性の確保/武生中央公園再整備計画	17
第4 実施プログラム	18
1 用途別の方向性	18
2 実施プログラム	22
(1) 実施プログラムの基本事項	22
(2) 実施計画（前期5年間）	25
(3) 基本計画（後期5年間）	42
3 再配置計画の全体像	63
第5 まとめ 計画の成果と展望	65
1 計画の成果	65
2 今後の展望	68
資料編	69
資料1-懇話会の開催経緯	69
資料2-スポーツ施設のあり方を考える懇話会 委員名簿	69
資料3-利用状況（平成24年度実績）	70
資料4-稼働日1日当たりの利用者数（平成24年度実績）グラフ	71
資料5-コスト状況（平成24年度実績）	72
資料6-利用者1人当たりのコスト状況（平成24年度実績）	73
資料7-利用者1人当たりのコスト状況（平成24年度実績）グラフ	74
資料8-スポーツ施設配置状況図	75
資料9-用語解説	77

第1 基本的な考え方

1 計画の基本事項

(1) 計画の背景

- 人口減少・少子高齢社会の到来
- 平成17年10月 武生市、今立町の合併
- 依然として続く厳しい地方財政状況
- 平成30年「福井しあわせ元気国体」開催
(越前市が会場地となる競技：フェンシング、軟式野球、ソフトテニス、ソフトボール)

- ・増加傾向にあった我が国の人口は、平成20年をピークとして減少に転じており、今後は長期的に人口減少が続くと想定されています。
- ・本市では、平成18年度に本市のまちづくりの最上位計画である「越前市総合計画」を定め、「自立と協働」を基本理念に「元気な自立都市 越前」を将来像として掲げ、市民と行政が相互の信頼関係のもとにそれぞれの特性を尊重し、適切に役割分担をしながら新たな時代に対応したまちづくりを進め、越前市の魅力を総合的に高めていくことを打ち出しています。
- ・一方、本市においても財政状況は厳しい状況にあり、今後の財政見通しでは、財源がますます減少していくことが予測されています。
- ・平成30年には2巡目となる福井国体が開催され、本市はフェンシング、軟式野球、ソフトテニス、ソフトボールの競技会場地となることが内定しており、それぞれの競技会場として運営にふさわしい施設を整える必要があります。
- ・「越前市スポーツ施設再配置計画」は、長期的な人口減少など地域社会の動向を見据えつつ、スポーツ施設の今後のあり方を整理し、スポーツ施設の配置の最適化を図ることにより効率的で効果的な運営・維持管理を実現するための計画です。

(2) 計画の対象

●市内31スポーツ施設

- ・本計画の対象は、越前市が旧武生市及び旧今立町から引き継いだスポーツ施設と新たに整備した計31施設を対象とします。

(3) 計画の位置づけ

●スポーツ施設の再配置と整備の指針

- ・本計画は、本市における今後のスポーツ施設の再配置と整備の指針となるものであり、市スポーツ推進プランの定めた基本的な方針を受け、極力、機能を維持しながら施設の最適配置を進めます。
- ・本計画は、本市の最上位計画である「越前市総合計画【改訂版】(H23.9)」、「越前市《新》行財政構造改革プログラム(H23.3)」を上位計画とする計画です。

(4)計画の目標期間

- 10年間：平成26年度から平成35年度まで
- 本計画期間全体の中で、既存施設の持続的有効活用を基本とした、効率的で効果的なスポーツ施設サービス提供に向けた整備を実施する
- 前期5年間は実施計画を定め、後期5年間は基本計画を定める

- ・ 本計画の目標期間は、平成26年度から平成35年度までの10年間とします。
- ・ 前期5年間（平成26年度から平成30年度まで）については、「実施計画」と位置づけ、重点的・優先的に福井国体開催施設等の整備を進めます。
- ・ 後期5年間（平成31年度から平成35年度まで）については、現時点では「基本計画」と位置づけ、前期5年間において総合的な評価や関係団体との合意形成を進め、国体開催後を目途に「基本計画」から「実施計画」に見直し、整備を実施します。

2 課題の整理

- ・これからのまちづくりは、安全・安心、環境への配慮、持続可能性がより一層求められることとなります。
- ・スポーツ施設の整備、運営においても、利用者の安全確保や災害時の避難・救護の拠点機能、省エネルギー等の環境への負荷削

減、複合化・集約化などの再配置による持続可能性を高めることが必須事項となっています。ここでは、スポーツ施設が直面する現状と課題、及び対応の方向性を整理します。

スポーツ施設が直面する課題

(1)利用者数及び年齢構成の変化

(2)財政の見通し

(3)施設の高経年化による維持更新費用の増大

(4)施設の機能的水準の向上と併せた再配置(課題のまとめ)

(1)利用者数及び年齢構成の変化

現 状

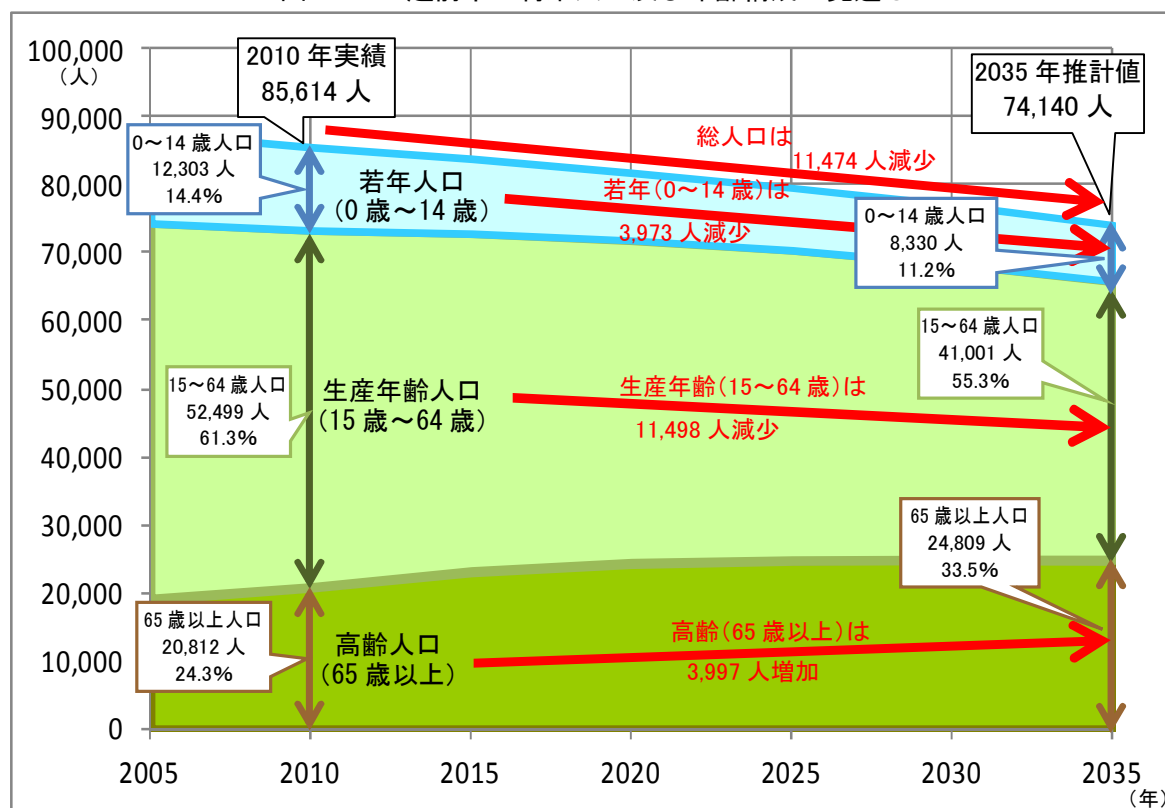
- ・越前市の人口は、平成 17 年（2005 年）を境に減少期に突入しており、今後は長期的に人口減少傾向が続くことが確実視されています。
- ・図 1-1 に示すとおり、越前市の平成 47 年（2035 年）の人口は、平成 22 年（2010 年）よりも約 11,474 人（13%）少ない 74,140 人と予測されます。
- ・人口が減少するだけでなく、少子高齢化の進展も進みます。平成 47 年（2035 年）の 15 歳未満の人口は、平成 22 年（2010 年）の 68%となる一方、65 歳以上の高齢者は 119%になると予測されます。

課 題

- ・以上のように、人口の減少と少子高齢社会の一層の進展が見込まれることから、スポーツ施設の利用者数及び年齢構成もおのずと変化し、その対応が求められることとなります。また、より少ない人口で施設の運営、維持更新に必要な費用を負担しなければなりません。

⇒このため、利用者の需要の変容に柔軟に対応することができるように、現にあるスポーツ施設の統廃合などを進めながら、機能、量の最適化を進める必要があります。

図 1-1 越前市の将来人口及び年齢構成の見通し



※2010年国勢調査人口の外国人を含む総人口をもとにコーホート要因法により推計。男女別年齢別生残率、男女別年齢別準移動率、子ども女性比、0~4歳性比の各数値は、国立社会保障・人口問題研究所が2008年に公表している数値を用いている。

出典：「越前市まちづくり懇話会最終報告書 平成 26 年2月」

(2) 財政の見通し

現 状

- ・図1-2に示すように、「越前市行財政構造改革プログラムⅢ（H26.4）」による中期財政見通しでは、平成27年度以降、歳入歳出の差引は赤字となり、財政調整基金の取り崩しによって収支均衡を図らなければならないことが予測されています。
- ・これは、高齢化の進行に伴う扶助費等の増加、小中学校などの耐震化をはじめ、本庁舎の建設及び今立総合支所の改築、北陸新幹線「南越駅」（仮称）周辺整備などのプロジェクトによる影響額等を反映させていることによります。

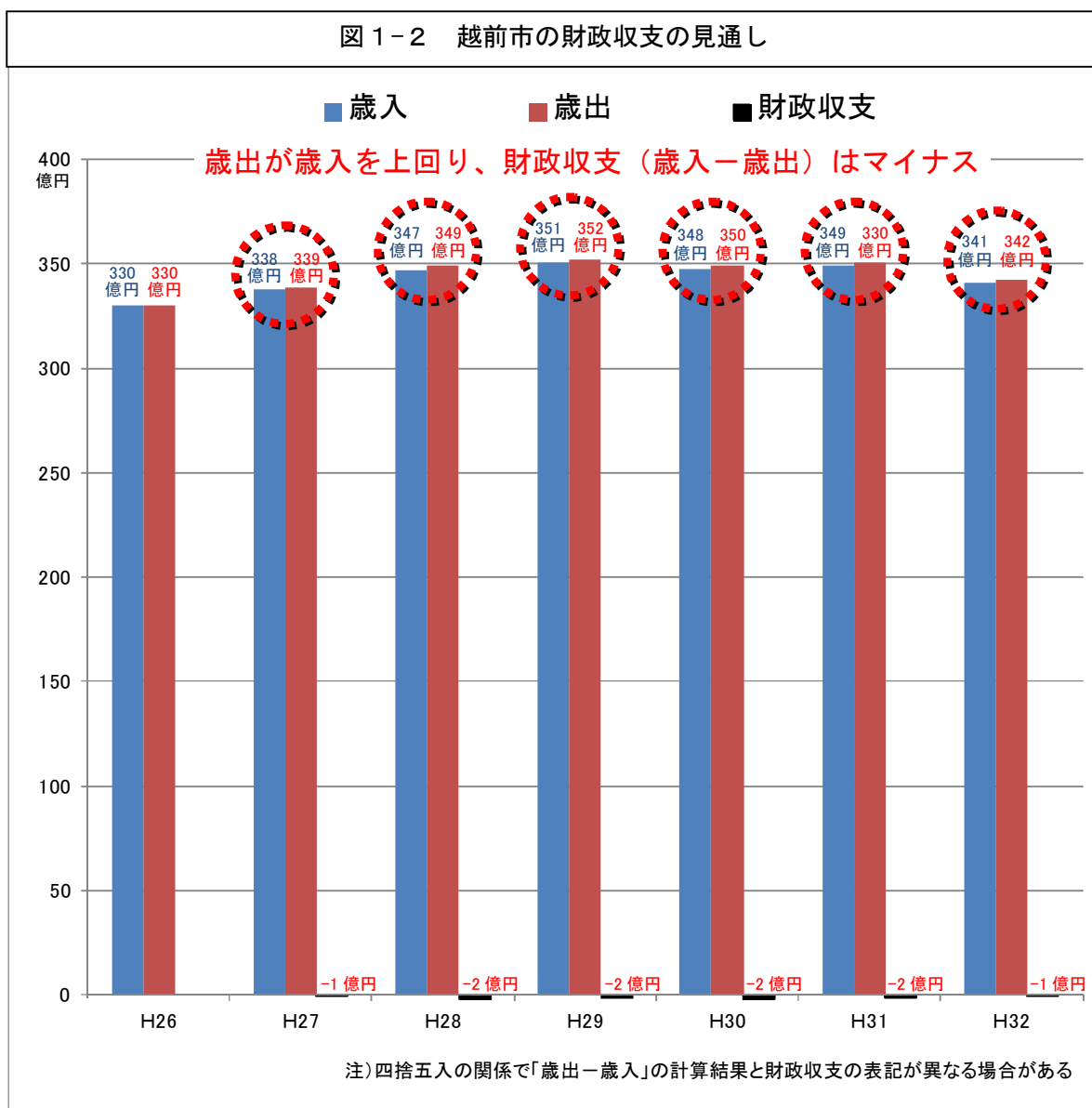
課 題

- ・今後は、より一層厳しくなることが予測される財政状況に併せた効率的な行財政運営や行政サービスの選択と集中が求められます。

方 向 性

⇒このため、スポーツ施設においても今後は、より一層の計画的な更新に努める必要があります。

図1-2 越前市の財政収支の見通し



資料:「越前市行財政構造改革プログラムⅢ(H26.4)」

(3) 施設の高経年化による維持更新費用の増大

① 公共公益施設（建築物）

現 状

・ 図1-3のとおり、越前市全体で見るとスポーツ施設以外にも学校や市営住宅など様々な施設を保有しており、これらの施設の多くが、今後、建替えなどの更新時期を迎えることとなります。

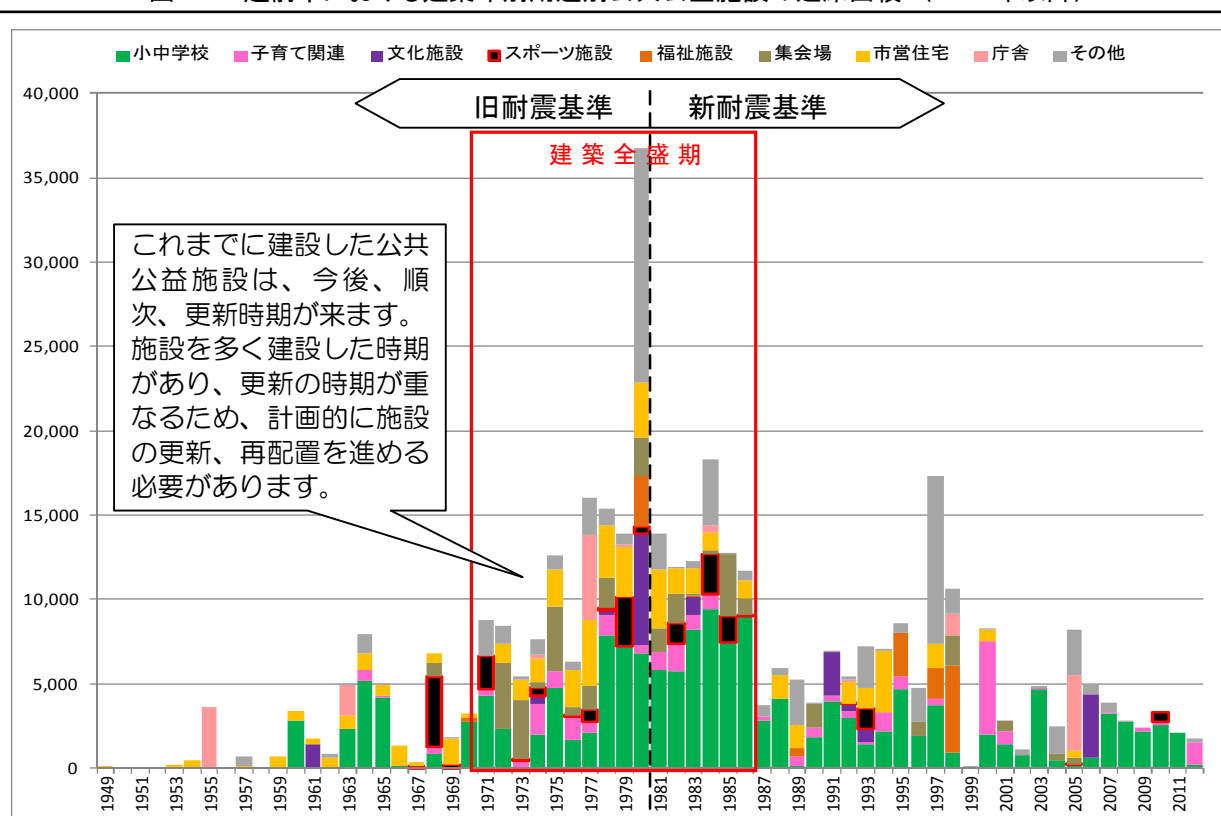
課 題

・ 人口が減少し財政状況が厳しくなる中、優先度を検討しながら、これらの施設の維持更新を計画的・効率的に進めなければ、一時に更新時期が集中し、財政的な硬直化を招くこととなります。

方 向 性

⇒このため、スポーツ施設についても計画的な更新や再配置などの工夫により、維持更新費用などを削減する必要があります。

図1-3 越前市における建築年別用途別公共公益施設の延床面積（1949年以降）



用途	延床面積	構成比	用途	延床面積	構成比
スポーツ施設	18,443 ㎡	4.7%	集会場 公民館等	31,789 ㎡	8.1%
子育て関連 幼稚園、保育園、児童福祉	25,557 ㎡	6.5%	市営住宅	50,692 ㎡	13.0%
文化施設 文化施設、図書館	17,351 ㎡	4.4%	庁舎 本庁舎、支所、出張所、消防庁舎	17,227 ㎡	4.4%
小中学校	156,610 ㎡	40.1%	その他 浄化センター、ポンプ場、休止施設等	59,483 ㎡	15.2%
福祉施設 高齢者福祉施設、診療所	13,489 ㎡	3.5%	合計	390,645 ㎡	100.0%

出典：「越前市まちづくり懇話会中間報告書 平成25年7月」（一部加工）

②インフラ施設

現 状

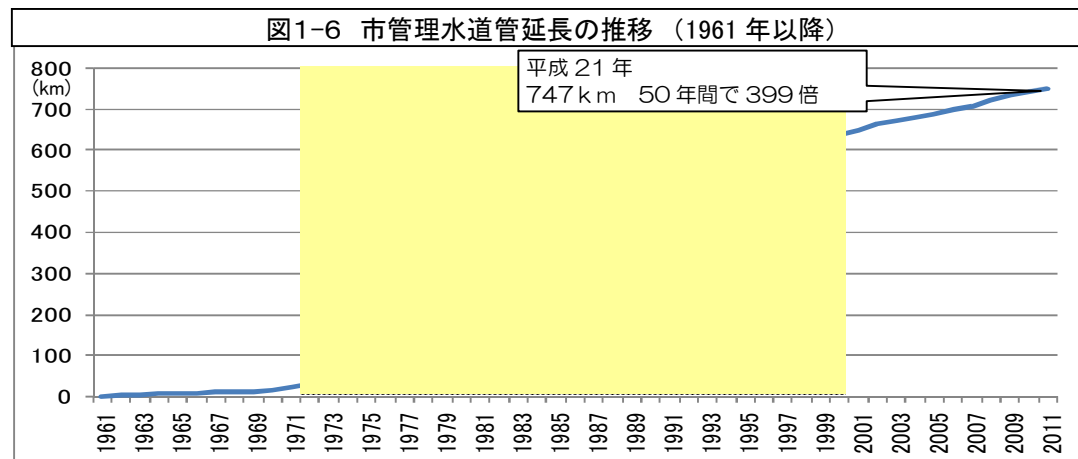
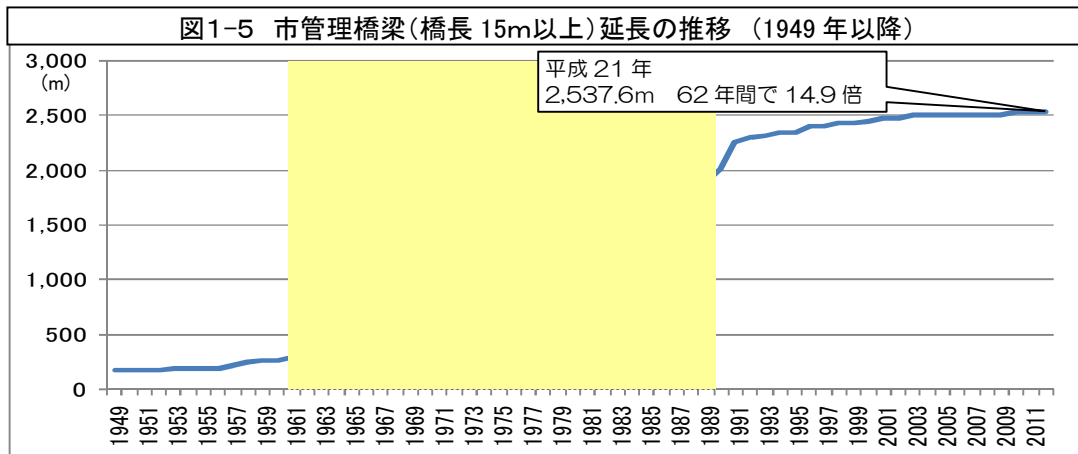
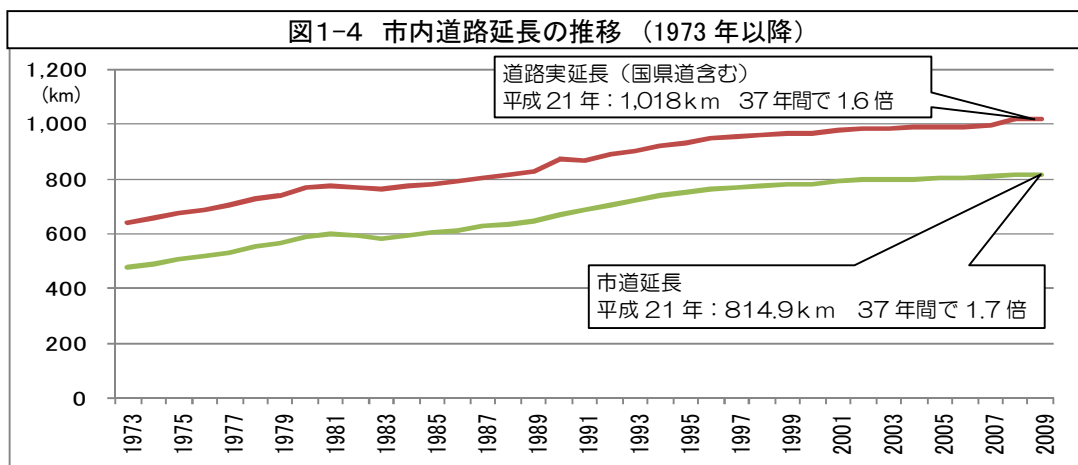
- ・図1-4から図1-6までに示すとおり、市は、市民生活や企業活動を支える重要な施設として市道や橋梁などのインフラの整備や管理を行っており、これらの施設の数はずっと増えてきています。今後、これらの施設の維持更新費用の増加が予測されます。

課 題

- ・公共公益施設（建築物）と同様に、これらの施設の維持更新を効率的に進めなければ、財政的硬直化を招くか、市民生活の安全が脅かされることとなります。

方 向 性

⇒これら生活を支える基盤施設の維持更新費用を確保する上でもスポーツ施設を含む全ての施設の維持更新を効率的に進める必要があります。



出典：いずれも「越前市まちづくり懇話会中間報告書 平成25年7月」（一部加工）

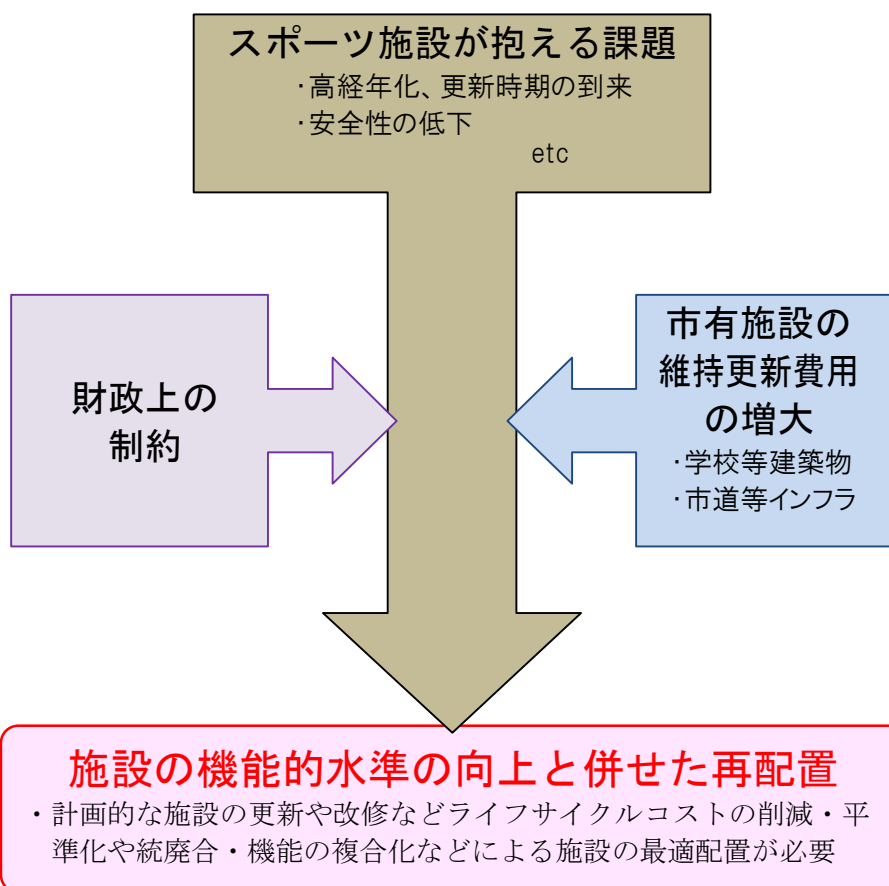
(4)施設の機能的水準の向上と併せた再配置(課題のまとめ)

課題のまとめ

- ・本市が所有するスポーツ施設には、老朽化が進んでいたり、バリアフリーへの対応が不十分であったり、利用が少なかったりするなど、課題のある施設が見られます。
- ・また、今後の利用ニーズには、量・質ともに変化が予測され、それらの変化への対応も求められます。
- ・一方で、より一層の厳しい財政運営が予測される中、多くの市有施設やインフラの維持更新を進めていかなければならず、スポーツ施設においても、維持更新費用を削減しなければなりません。

方向性

⇒このため、施設の統合化や機能の複合化などの再配置を進め、あわせて、日頃から施設の不具合を記録、早期に発見、把握し施設を適切に維持保全していく「計画保全」を実施することにより、スポーツ施設の維持更新費用を削減につなげ、利用者状況に対応した施設水準及び機能の確保の両立を図らなければなりません。



第2 現状と評価

1 施設概要

①施設一覧

- ・本市スポーツ課が所管するスポーツ施設は31施設です。
- ・平成25年4月1日をもって廃止した今立中央公園水泳場を除く30施設の競技場面積の合計は132,961㎡です。
- ・主な機能別に見ると体育館9施設（競技場面積6,882㎡）、屋内競技場1施設（競技

場面積352㎡）、武道場3施設（競技場面積1,872㎡）、庭球場7施設（競技場面積23,756㎡）、グラウンド6施設（競技場面積90,191㎡）、水泳場2施設（競技場面積8,900㎡）、ゲートボール場2施設（競技場面積1,008㎡）です。

表2-1 施設一覧

No	施設名称	主な機能	競技場面積(㎡)	土地保有の状況	建設年度	構造	指定管理者H23	囲込	囲外	混用	ハローボール	バミントン	バスケット	野球	ソフトボール	テニス	ゲートボール
1	武生中央公園体育館	体育館	1,693	市有地	1967	RC	●	●	-	-	3	10	2	-	-	-	-
2	武生中央公園野球場	グラウンド	16,882	一部借地	1965	-	●	-	●	●	-	-	-	1	-	-	-
3	武生中央公園水泳場	水泳場	7,512	市有地	1965	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-
4	武生中央公園庭球場	庭球場	7,020	市有地	1967	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	8	-
5	武生中央公園弓道場	武道場	444	一部借地	1971	W	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	武生中央公園多目的グラウンド	グラウンド	15,280	市有地	1954	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-
7	武生東運動公園ソフトボール場	グラウンド	23,000	一部借地	1977	-	●	-	●	●	-	-	-	-	4	-	-
8	武生東運動公園庭球場	庭球場	4,000	市有地	1981	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	6	-
9	武生東運動公園陸上競技場	グラウンド	24,900	市有地	1982	RC	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-
10	帆山公園庭球場	庭球場	1,600	借地	1976	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	2	-
11	帆山公園相撲場	武道場	100	借地	1975	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-
12	家久スポーツ公園庭球場	庭球場	3,176	市有地	1984	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	4	-
13	家久スポーツ公園温水プール	水泳場	1,388	市有地	1984	RC	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	家久スポーツ公園ソフトボール場	グラウンド	4,974	市有地	1984	-	●	-	●	●	-	-	-	-	1	-	-
15	今立中央公園多目的広場	グラウンド	5,155	一部借地	1976	-	-	-	●	●	-	-	-	1	2	-	-
16	今立中央公園水泳場	水泳場	平成25年4月1日から廃止														
17	今立南部公園庭球場	庭球場	3,100	市有地	1985	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	4	-
18	白崎公園屋内ゲートボール場	ゲートボール場	600	市有地	1990	SC	●	●	-	●	-	-	-	-	-	-	2
19	瓜生水と緑公園体育館	体育館	480	市有地	2010	SRC	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	越前市高瀬トレーニングセンター	屋内競技場	352	借地	1977	SC	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	越前市武道館	武道場	1,328	市有地	1979	RC	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	越前市みどり自然の村ゲートボール場	ゲートボール場	408	市有地	1987	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	1
23	越前市みどり自然の村テニスコート	庭球場	3,025	市有地	1981	SC	●	-	●	●	-	-	-	-	-	4	-
24	越前市北新庄体育館	体育館	497	借地	1981	SC	-	●	-	-	1	3	1	-	-	-	-
25	越前市北日野体育館	体育館	607	一部借地	1983	SC	-	●	-	-	1	4	1	-	-	-	-
26	越前市大虫体育館	体育館	607	市有地	1983	SC	-	●	-	-	1	-	1	-	-	-	-
27	越前市武生体育センター	体育館	807	市有地	1977	SC	-	●	-	-	-	1	-	-	-	-	-
28	越前市今立体育センター	体育館	913	市有地	1983	RC/SRC	●	●	-	-	1	6	1	-	-	-	-
29	越前市今立ふれあいプラザ	体育館	792	一部借地	1978	SC	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30	越前市粟田部体育館	体育館	486	市有地	1974	SC	-	●	-	-	1	3	-	-	-	-	-
31	越前市今立テニスコート	庭球場	1,835	市有地	2001	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	2	-
合計			132,961				22	14	16	9	8	27	6	2	7	30	3

※構造：W/木造、RC/鉄筋コンクリート造、SRC/鉄骨鉄筋コンクリート造、SC/鉄骨造

※今立ふれあいプラザの建設年度欄（1978年）は、旧今立町に移管・改修された年度

2 施設の評価

- 各スポーツ施設の現状を分析するため、以下の3つの側面から評価します。ここでの分析結果を踏まえ基本方針に基づき総合的な判断により、個々の施設について再配置を計画します。

表 2-2 《施設の評価の視点と評価項目》

評価の視点		評価項目
施設の構造	利用者の安全性確保及び今後の維持更新費用に大きな影響を及ぼす施設の物理的状態を表す	<ul style="list-style-type: none"> 構造安全性 老朽化状況 バリアフリー状況
利用状況	スポーツ施設としてのサービス水準や利用ニーズの有無を表す	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率 稼働1日当たりの利用者数
コスト状況	施設の維持や施設での事業運営の相対的な効率性を表す	<ul style="list-style-type: none"> 利用者1人当たりのコスト

※現在、廃止済の今立中央公園水泳場は、評価の対象から除きます。

①施設の構造評価

- 各スポーツ施設について、以下の3つの指標で構造面を評価します。

表 2-3 《各評価項目ごとの指標と評価類型の考え方》

評価項目		A : (3ポイント)	B : (2ポイント)	C : (1ポイント)
施設の構造評価	＜建築物＞ 既往の耐震診断結果、建設時の耐震基準(建築基準法)によりA～Cの3類型に分類	耐震診断の結果、耐震性が確保されている。又は、新耐震基準により設計されている	耐震診断の結果、ある程度の耐震性を有している	旧耐震基準により設計されており、耐震診断が未実施である。又は、耐震診断の結果Cランク以下
	＜グラウンド等＞ フェンス、照明の支柱等の劣化状況によりA～Cの3類型に分類	目視点検の結果、構造物が健全な状態と認められる	目視点検の結果、構造物の塗装の劣化、剥離が認められる	目視点検の結果、コンクリート内部に達するひび割れや欠損等が認められる
	老朽化状況 建設後の経年数によりA～Cの3類型に分類 グラウンド、テニスコートなど屋外施設は、スタンドやフェンス、ナイター照明の支柱等の構造物の老朽化状況进行评估	現時点で耐用年数を半分以上残している RC(建設後20年未満) SC(建設後15年未満)	耐用年数の半分が経過し、10年後には老朽化が進む RC(建設後20年～40年) SC(建設後15年～30年)	耐用年数を過ぎている。または、耐用年数が近い施設 RC(建設後40年以上が経過) SC(建設後30年以上が経過)
	バリアフリー状況 段差への対応状況及び身障者用トイレの整備状況からA～Cの3類型に分類	対応済み <input type="radio"/> スロープ設置など段差への対応 <input type="radio"/> 身障者用トイレ	身障者用トイレはあるが、スロープのない段差がある <input checked="" type="radio"/> 段差への対応 <input type="radio"/> 身障者用トイレ	身障者用トイレがない <input type="radio"/> 段差への対応 <input checked="" type="radio"/> 身障者用トイレ 又は <input checked="" type="radio"/> 段差への対応 <input checked="" type="radio"/> 身障者用トイレ

(参考) 財務省令「減価償却資産の耐用年数」による耐用年数は、木造24年、鉄骨造38年、鉄筋コンクリート造50年

・各スポーツ施設の構造評価の結果は表2-4のとおりです。構造安全性及び老朽化状況の両面で評価が低い施設については、利

用者の安全性を確保するために、抜本的な対策が必要となります。

表2-4 《施設の構造評価結果表》

No	施設名称	主な機能	施設の構造評価		
			構造安全性	老朽化状況	バリアフリー状況
1	武生中央公園体育館	体育館	A	C	A
2	武生中央公園野球場	グラウンド	C	C	C
3	武生中央公園水泳場	水泳場	A	C	C
4	武生中央公園庭球場	庭球場	C	C	C
5	武生中央公園弓道場	武道場	C	C	C
6	武生中央公園多目的グラウンド	グラウンド	A	C	C
7	武生東運動公園ソフトボール場	グラウンド	A	B	C
8	武生東運動公園庭球場	庭球場	B	B	C
9	武生東運動公園陸上競技場	グラウンド	A	B	C
10	帆山公園庭球場	庭球場	B	B	C
11	帆山公園相撲場	武道場	A	B	C
12	家久スポーツ公園庭球場	庭球場	A	B	A
13	家久スポーツ公園温水プール	水泳場	A	B	A
14	家久スポーツ公園ソフトボール場	グラウンド	A	B	B
15	今立中央公園多目的広場	グラウンド	C	C	C
16	今立中央公園水泳場	水泳場	平成25年4月1日から廃止		
17	今立南部公園庭球場	庭球場	C	B	C
18	白崎公園屋内ゲートボール場	ゲートボール場	A	B	A
19	瓜生水と緑公園体育館	体育館	A	A	A
20	越前市高瀬トレーニングセンター	屋内競技場	C	C	C
21	越前市武道館	武道場	B	B	C
22	越前市みどりと自然の村ゲートボール場	ゲートボール場	A	B	C
23	越前市みどりと自然の村テニスコート	庭球場	C	B	C
24	越前市北新庄体育館	体育館	A	C	C
25	越前市北日野体育館	体育館	A	C	A
26	越前市大虫体育館	体育館	A	C	A
27	越前市武生体育センター	体育館	C	C	C
28	越前市今立体育センター	体育館	A	B	A
29	越前市今立ふれあいプラザ	体育館	C	C	A
30	越前市粟田部体育館	体育館	C	C	C
31	越前市今立テニスコート	庭球場	A	A	C

②利用状況評価

- ・各スポーツ施設について、以下の2つの指標で利用状況を評価します。

表 2-5 《各評価項目ごとの指標と評価類型の考え方》

評価項目		A : (3ポイント)	B : (2ポイント)	C : (1ポイント)
利用 状 況 評 価	稼働率 条例及び規則による年間 運営日数に対する実際の 稼働日数(H24 年度)の割 合によりA～Cの3類型に 分類	稼働率が9割を超 える施設	稼働率が6割～9 割の施設	稼働率が6割未満 の施設
	稼働1日当たりの利用 者数 稼働1日当たりの利用者 数(H24 年度)からA ～Cの3類型に分類	稼働1日当たりの 利用者数が種別ご との比較で偏差値 55超 (正規分布で 概ね上位3割に相当)	稼働1日当たりの 利用者数が種別ご との比較で偏差値 45～55 (正規分布で中央値50を 挟んで4割に相当)	稼働1日当たりの 利用者数が種別ご との比較で偏差値 45未満 (正規分布で 概ね下位3割に相当)



表 2-6 《施設の利用状況評価結果表》

No.	施設名称	主な機能	利用状況評価	
			稼働率	稼働1日 当たり 利用者数
1	武生中央公園体育館	体育館	A	A
2	武生中央公園野球場	グラウンド	B	B
3	武生中央公園水泳場	水泳場	A	A
4	武生中央公園庭球場	庭球場	A	A
5	武生中央公園弓道場	武道場	A	C
6	武生中央公園多目的グラウンド	グラウンド	A	B
7	武生東運動公園ソフトボール場	グラウンド	C	A
8	武生東運動公園庭球場	庭球場	C	C
9	武生東運動公園陸上競技場	グラウンド	C	B
10	帆山公園庭球場	庭球場	C	C
11	帆山公園相撲場	武道場	A	C
12	家久スポーツ公園庭球場	庭球場	C	C
13	家久スポーツ公園温水プール	水泳場	A	B
14	家久スポーツ公園ソフトボール場	グラウンド	C	B
15	今立中央公園多目的広場	グラウンド	A	C
16	今立中央公園水泳場	水泳場	平成 25 年 4 月 1 日から廃止	
17	今立南部公園庭球場	庭球場	C	C
18	白崎公園屋内ゲートボール場	ゲートボール場	B	B
19	瓜生水と緑公園体育館	体育館	B	B
20	越前市高瀬トレーニングセンター	屋内競技場	B	B
21	越前市武道館	武道場	A	A
22	越前市みどりと自然の村ゲートボール場	ゲートボール場	C	C
23	越前市みどりと自然の村テニスコート	庭球場	C	B
24	越前市北新庄体育館	体育館	B	B
25	越前市北日野体育館	体育館	A	B
26	越前市大虫体育館	体育館	A	B
27	越前市武生体育センター	体育館	A	B
28	越前市今立体育センター	体育館	A	B
29	越前市今立ふれあいプラザ	体育館	B	B
30	越前市粟田部体育館	体育館	B	B
31	越前市今立テニスコート	庭球場	C	B

※その他の施設の稼働率及び稼働1日当たりの利用者数の詳細は資料編を参照

- 各スポーツ施設の利用状況評価の結果は表 2-6 のとおりです。(稼働率等の具体的な数値は p 70 資料 3 参照) グラウンドなどの屋外施設は、天候の影響を受けることから全体的に稼働率が低い状況にあります。
- 主な機能が同一の施設でも施設によって利用状況評価に差が生じており、評価が低い施設については、各競技のスポーツ人口の多寡 (p 70 資料 3 参照) を考慮した上で、利用促進又はあり方の検討などの対策が必要となります。特に稼働率が高い一方で稼働 1 日当たり利用者数が少ない施設は、ニーズに合わせた運営を検討する必要があります。

③コスト状況評価

- 各スポーツ施設が市民のスポーツ需要に応えるためには、光熱水費や建物管理委託費などの施設維持に要するコスト、職員人件費や指定管理者等人件費などの施設での事

業運営にコストを要しています。ここでは、利用者1人当たりのトータルコストを比較し、相対的なコストパフォーマンスを評価します。

表 2-7 《各評価項目ごとの指標と評価類型の考え方》

評価項目		A : (3ポイント)	B : (2ポイント)	C : (1ポイント)
コスト状況評価	施設のトータルコスト			
	平成 24 年度の利用者1人当たりのトータルコスト（コストパフォーマンス）から A～C の 3 類型に分類 トータルコストは、光熱水費や建物管理委託費などの施設維持に要するコスト、職員人件費や指定管理者等人件費などの施設での事業運営に要するコストの総計	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値 45 未満 (正規分布で概ね上位3割に相当)	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値 45～55 (正規分布で中央値 50 を挟んで4割に相当)	利用者1人当たりのコストが種別ごとの比較で偏差値 55 超 (正規分布で概ね下位3割に相当)



表 2-8 《施設のコスト状況評価結果》

No.	施設名称	主な機能	コスト 状況評価
1	武生中央公園体育館	体育館	B
2	武生中央公園野球場	グラウンド	C
3	武生中央公園水泳場	水泳場	C
4	武生中央公園庭球場	庭球場	B
5	武生中央公園弓道場	武道場	A
6	武生中央公園多目的グラウンド	グラウンド	A
7	武生東運動公園ソフトボール場	グラウンド	B
8	武生東運動公園庭球場	庭球場	C
9	武生東運動公園陸上競技場	グラウンド	B
10	帆山公園庭球場	庭球場	B
11	帆山公園相撲場	武道場	A
12	家久スポーツ公園庭球場	庭球場	B
13	家久スポーツ公園温水プール	水泳場	A
14	家久スポーツ公園ソフトボール場	グラウンド	B
15	今立中央公園多目的広場	グラウンド	C
16	今立中央公園水泳場	水泳場	H25.4.1から 廃止
17	今立南部公園庭球場	庭球場	C
18	白崎公園屋内ゲートボール場	ゲートボール場	B
19	瓜生水と緑公園体育館	体育館	B
20	越前市高瀬トレーニングセンター	屋内競技場	B
21	越前市武道館	武道場	B
22	越前市みどりと自然の村ゲートボール場	ゲートボール場	A
23	越前市みどりと自然の村テニスコート	庭球場	C
24	越前市北新庄体育館	体育館	A
25	越前市北日野体育館	体育館	A
26	越前市大虫体育館	体育館	A
27	越前市武生体育センター	体育館	C
28	越前市今立体育センター	体育館	B
29	越前市今立ふれあいプラザ	体育館	C
30	越前市粟田部体育館	体育館	B
31	越前市今立テニスコート	庭球場	A

※稼働率及び稼働 1 日当たりの利用者数の詳細は資料編を参照

- ・各スポーツ施設のコスト状況評価の結果は表 2-8 のとおりです。(利用者 1 人当たりのコストの具体的な数値は p 73 資料-6 参照)
- ・主な機能が同一の施設でも施設によってコスト状況評価に差が生じており、評価が低い施設は、利用の促進や運営方法の見直しによるコストの削減が必要です。



第3 基本方針

(1) 国体開催に向けた重点的・優先的整備

- ・平成 30 年には、県を挙げての国民的スポーツイベント福井国体が開催されます。
- ・本市はフェンシング、軟式野球、ソフトテニス及びソフトボールの競技会場地となることが内定しています。
- ・これを機に、夢と感動を共有し、する人、観る人、支える人の拡大を図る必要があります。
- ・このため、平成 29 年のプレ大会の開催を目指し、これらの競技会場となる施設の再整備に関する短期プログラムを策定し、優先的・重点的な整備を推進します。

(2) 機能の維持向上と施設の集約化、複合化及び機能移転による統廃合

- ・現在のスポーツ施設の多くは、昭和 40 年代から 50 年代までの人口が増加する時期に建設されており、今後の人口減少により、施設数と需要の間にギャップが生じることが予想されます。
- ・また、今後とも厳しい財政状況が予測されており、老朽化が進み順次更新の時期を迎えるスポーツ施設の全てを現在と同じ数を維持して更新することは困難です。
- ・このため、施設の建物状況や利用状況、用途別の施設数と立地バランス、学校スポーツ施設などとの連携や避難施設の位置づけなどを総合的に勘案し、行政サービスが低下しないように極力機能を維持しながら、既存施設の有効活用を基本に、スポーツ施設の新設や更新・大規模改修のタイミングを捉えて、周辺に立地する施設の集約化及び複合化による統廃合を行います。

(3) モニタリングによる計画保全

- ・更新費用が大きい屋内スポーツ施設の 65%以上が築後 30 年を経過していることから、老朽化対策が必要となっています。
- ・各施設の老朽化の状況を踏まえ、施設の機能診断（P25～P37、P42～P61）に基づく劣化予測、適切な対策工法の選定などの実施を通じて既存施設の有効活用を図ります。

(4) 中長期的な視点での計画的な整備

- ・社会の成熟化に合わせてスポーツ施設の高経年化、財政上の制約から、計画的な施設の更新、再配置を実施することは必須事項となっています。
- ・短期的には、目に見える費用削減効果を発現することは困難ですが、中長期的に、維持更新費用の削減が図られるよう計画的に進めます。
- ・福井国体に向けた施設の優先的・重点的整備を行います。また、利用促進の取り組みによる利用状況を勘案して国体終了後に再配置計画を見直します。

(5) スポーツ施設の現状評価を考慮

- ・スポーツ施設の建築物の耐震性や老朽度などの安全性に関する現状や利用状況などの現状評価を考慮して再配置の方向性を検討します。
- ・耐震性能は近隣住民の避難、救援・救護等の場を確保する上で重要であることから、旧耐震基準で設計されている体育館（武生体育センター、栗田部体育館）の耐震診断を実施計画期間に順次進めます。

(6) 市内計画との整合性の確保/ 武生中央公園再整備計画

- ・市が定める上位計画、関連計画と整合を図ることにより、より総合的な視点で再配置を進めます。特にスポーツ施設が集積する武生中央公園の再整備計画と連携を図ります。



第4 実施プログラム

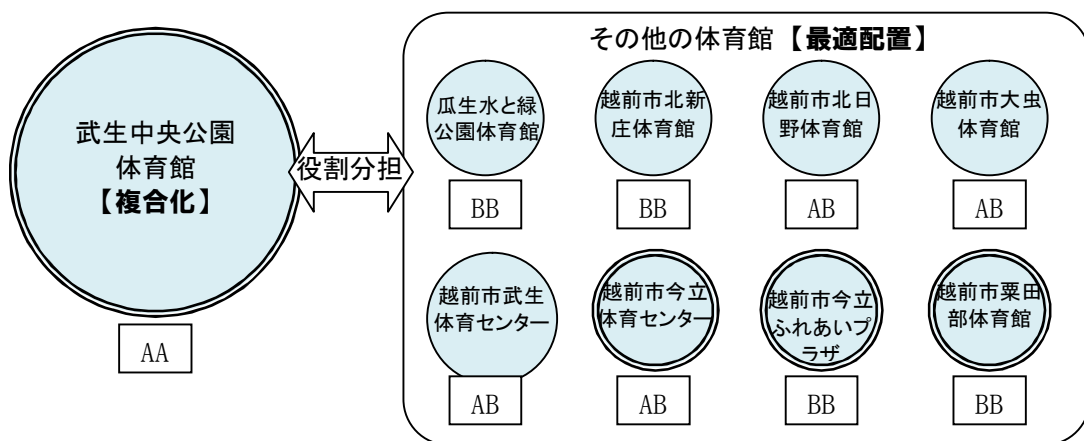
1 用途別の方向性

- ・人口減少が急速に進展する中、将来に大きな財政等の負担を残さないかたちで維持更新していくためには、人口減少に合わせて施設保有量を縮減することにより、次世代に継承可能な施設保有としていく必要があります。
- ・実施プログラムには、低利用となっている施設を見直すため利用範囲を考慮し、統合化を整理します。

① 体育館

● 高次のニーズにも対応する拠点的な複合体育館と、幅広いスポーツニーズに対応する地区体育館の役割分担

- ・体育館は、拠点的な体育館（各種大会の開催に求められる高い水準を備えるとともに、広域利用が望ましい種目の機能が複合的に集約する体育館）と、様々な屋内競技の練習場所などとして幅広く地域のスポーツニーズに対応し生涯スポーツの推進に寄与する地区体育館、学校体育館が役割分担してニーズに応えます。
- ・武生中央公園体育館の改築により、福井国体のフェンシング競技開催に備えるとともに、越前市高瀬トレーニングセンターの機能を移転・複合化します。
- ・その他の体育館は、地域バランス、学校体育館との連携、構造安全性、老朽化状況、利用者の理解度などを踏まえ総合的な評価を加えて最適配置を進めます。

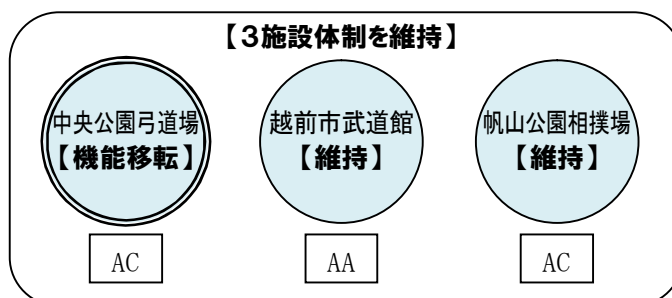


四角囲み枠内の左は「稼働率」、右は「稼働1日当たりの利用者数」

②武道場

●当面は3施設体制を維持

- ・柔道、剣道、弓道、相撲等の各武道競技の大会開催が可能な施設として、当面の間は3施設（武道館、弓道場及び相撲場）を維持します。
- ・武生中央公園弓道場は、施設の老朽化や遠的競技等に対応するため、機能移転したのち、廃止します。
- ・越前市武道館は、床の張替えや空調などの改修を検討します。また、帆山公園相撲場は、市内唯一の屋根付きの相撲場として当面は機能を維持します。

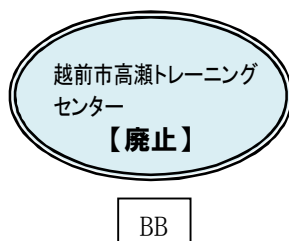


四角囲み枠内の左は「稼働率」、右は「稼働1日当たりの利用者数」

③屋内競技場

●越前市高瀬トレーニングセンターを新体育館に統合(機能移転)

- ・越前市高瀬トレーニングセンターは、
武生中央公園体育館の改築に合わせ
て機能を移転し、廃止します。

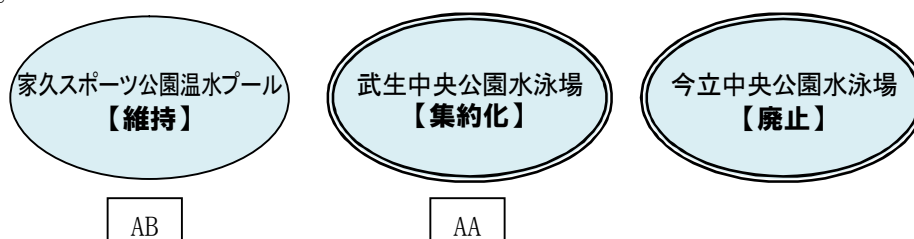


四角囲み枠内の左は「稼働率」、右は「稼働1日当たりの利用者数」

④水泳場

●屋内プール、長水路(50m)プールを維持

- ・通年で利用可能な家久スポーツ公園温水プールは維持し、武生中央公園水泳場の長水路(50m)は維持。幼児プールについては、規模を縮小し、維持します。
- ・今立中央公園水泳場は既に機能廃止しており、今後、都市公園の一部として整備します。

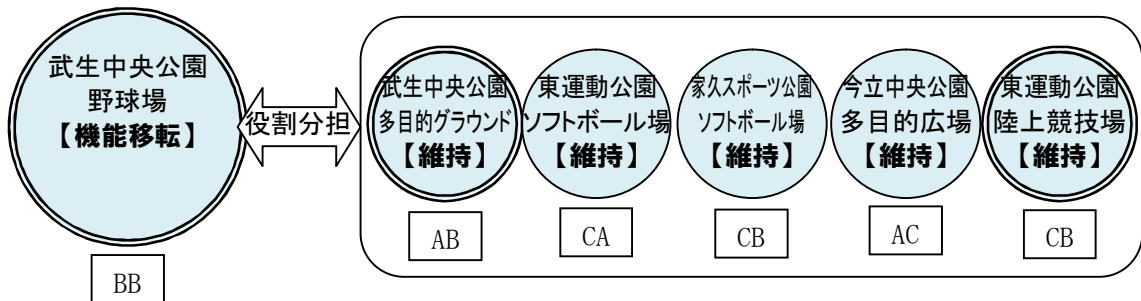


四角囲み枠内の左は「稼働率」、右は「稼働1日当たりの利用者数」

⑤グラウンド

●スポーツ施設として6グラウンド体制とし、丹南総合公園と役割分担

- 福井国体の軟式野球競技の会場に対応する高次のグラウンド機能は、丹南総合公園野球場（県営）に委ね、老朽化が進む武生中央公園野球場の機能を移転します。
- 福井国体の競技会場に対応し東運動公園ソフトボール場を改修、武生中央公園多目的グラウンドについては機能の一部を、瓜生水と緑公園隣接地に機能を移転しながら維持します。このほか、家久スポーツ公園ソフトボール場及び今立中央公園多目的広場はナイター設備を計画的に修繕し、機能を維持します。
- 武生東運動公園陸上競技場は、フィールドの芝張替え、公認更新に必要な改修を計画的に進めます。

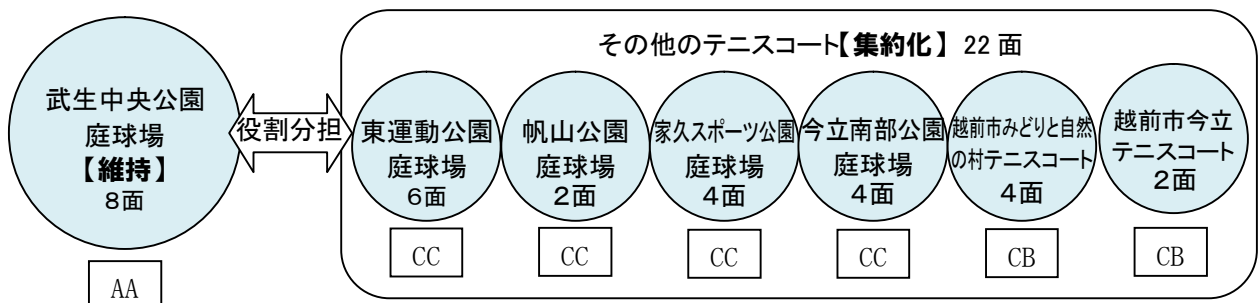


四角囲み枠内の左は「稼働率」、右は「稼働1日当たりの利用者数」

⑥庭球場

●武生中央公園庭球場を改修しその他の庭球場は利用状況等を踏まえて最適配置

- 武生中央公園庭球場は、福井国体の競技会場として、コート改修等の整備を行います。また、中央公園内に練習用テニスコートを整備します。
- その他の施設は、地域バランス、利用状況、老朽化状況などを踏まえ、現在全体で22面有しているコート数の統合を進めます。

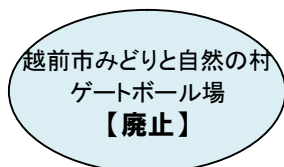


四角囲み枠内の左は「稼働率」、右は「稼働1日当たりの利用者数」

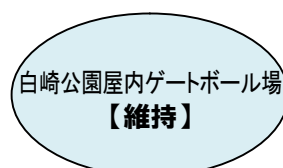
⑦ゲートボール場

●越前市みどりと自然の村ゲートボール場を廃止し跡地利用検討

- ・近年、利用実績が非常に少ない越前市みどりと自然の村ゲートボール場は、実施計画期間中に跡地利用の方針を決め廃止します。
- ・白崎公園屋内ゲートボール場は、新設される丹南総合公園全天候型球技場と共に、雨天においてもゲートボール競技が可能な施設として機能を維持し、計画的に修繕を行います。



CC



BB

四角囲み枠内の左は「稼働率」、右は「稼動1日当たりの利用者数」

2 実施プログラム

(1)実施プログラムの基本事項

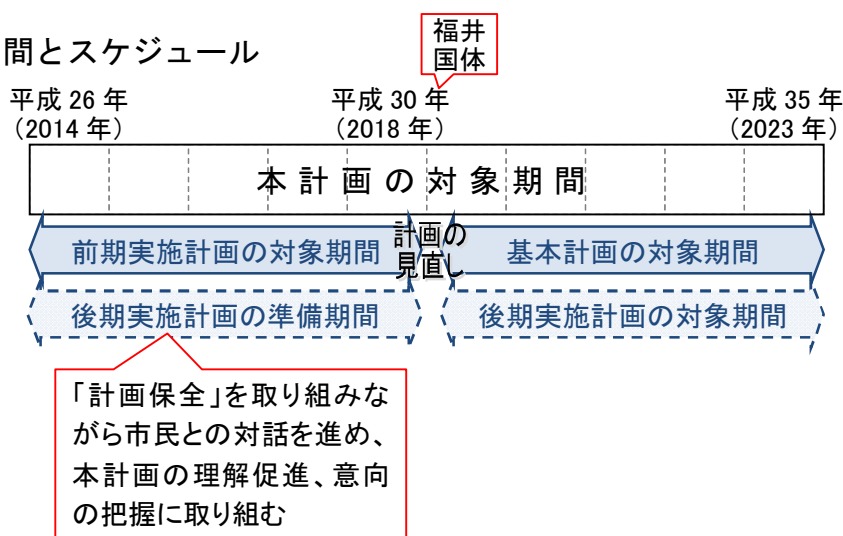
①実施プログラムの構成

●前期5年間の実施計画と後期5年間の基本計画

- ・実施プログラムは、今後10年間のスポーツ施設の整備等に関する計画であり、今後5年間において重点的・優先

的に取り組む施設を対象とした実施計画とその後5年間を計画対象期間とした基本計画からなります。

②計画対象期間とスケジュール



ア 実施計画

- ・本計画の対象期間である平成 26 年 (2014 年) から平成 35 年 (2023 年) までのうち前期 5 年間に当たる平成 26 年 (2014 年) から福井国体が開催される平成 30 年 (2018 年) までを計画対象期間とします。
- ・福井国体の開催に向け、年次計画に従って重点的・優先的に進めるべきスポーツ施設の整備を着実に進めます。

イ 基本計画

- ・本計画の対象期間である平成 26 年 (2014 年) から平成 35 年 (2023 年) までのうち後期 5 年間に当たる平成 31 年 (2019 年) から平成 35 年 (2023 年) までを計画対象期間とします。
- ・後期 5 年間については、「基本計画」と位置付け、前期 5 年間において総合的な評価や関係団体との合意形成を進め、国体開催後を目途に「基本計画」から「実施計画」に見直し、整備を実施します。

③対象施設

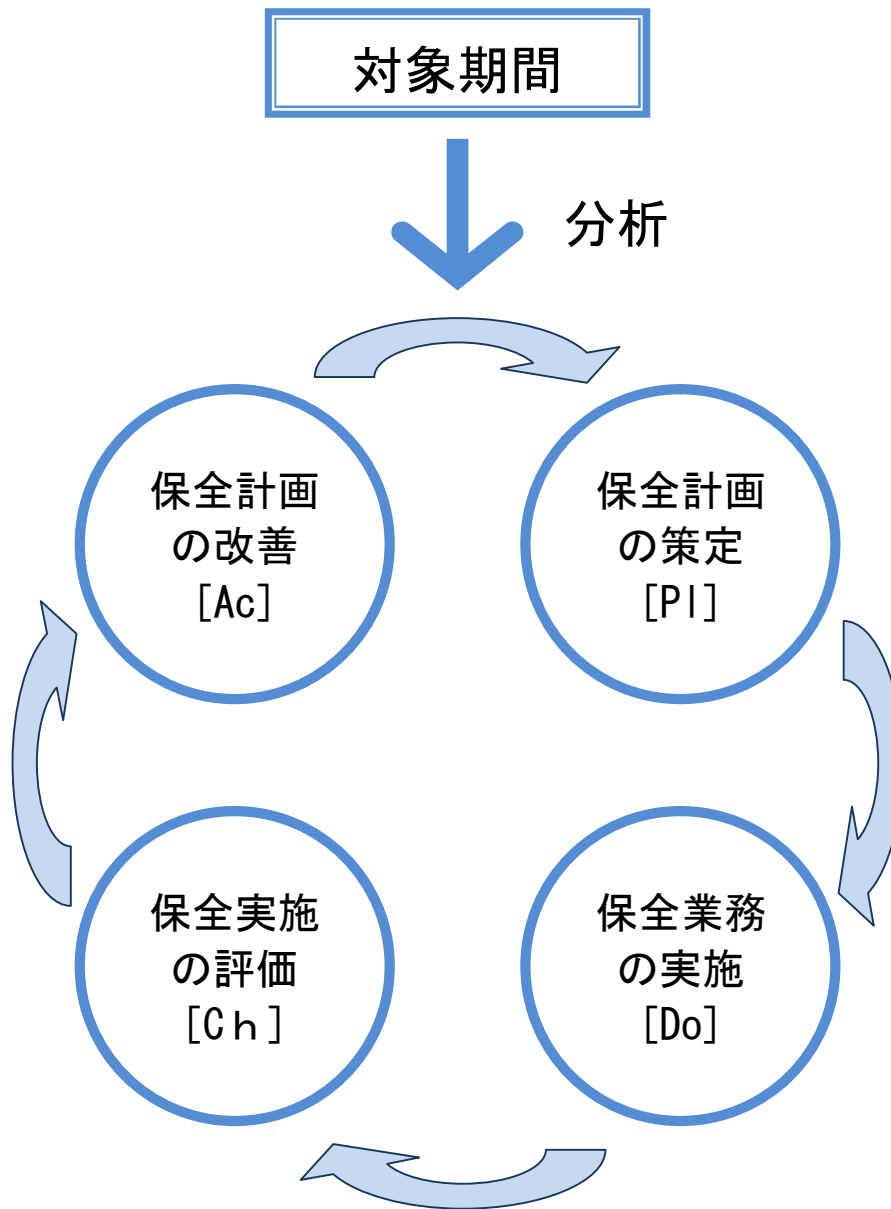
ア 実施計画

- ・実施計画では、福井国体の競技会場となるスポーツ施設の改築・改修を重点的に進めるとともに、周辺の関連施設の統合に取り組めます。

イ 基本計画

- ・基本計画では、実施計画対象施設以外の全てのスポーツ施設を対象とします。

計 画 保 全



(2)実施計画(前期5年間)

ア	現行施設に関する計画	25
	・ 武生中央公園体育館	25
	・ 武生中央公園野球場	26
	・ 武生中央公園水泳場	27
	・ 武生中央公園庭球場	28
	・ 武生中央公園弓道場	29
	・ 武生中央公園多目的グラウンド	30
	・ 武生東運動公園ソフトボール場	31
	・ 武生東運動公園陸上競技場	32
	・ 今立中央公園水泳場	33
	・ 越前市高瀬トレーニングセンター	33
	・ 越前市みどりと自然の村ゲートボール場	34
イ	新たなスポーツ施設の整備	35
	・ 丹南総合公園（県施設）	35
	・ 越前市総合体育館（仮称）	36
	・ 越前市弓道場（仮称）	36
	・ 新サッカー場（仮称）	36
ウ	前期5年の実施計画の概要	36
エ	実施計画年次プログラム（現行施設）	39
オ	実施計画年次プログラム（新規施設で表記）	39

(2)実施計画(前期5年間)

ア 現行施設に関する計画

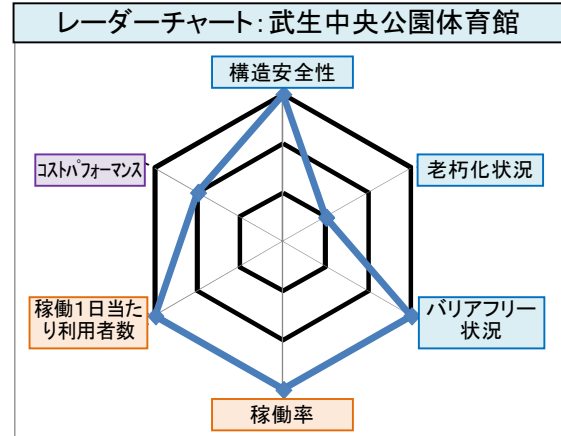
※施設名の右側は再配置方針()内はその分類、
【 】内は施設整備の方針。以下、他の施設も同様。

《 武生中央公園体育館：統合（複合化）【改築】※ 》

建設年度：昭和 42 年度

構造：鉄筋コンクリート

- ・武生中央公園体育館は、建設後 45 年以上が経過し、老朽化が進んでいます。また、福井国体のフェンシング競技会場となることから、全国大会が開催できる施設水準を整える必要があります。
- ・このため、現在立地する位置の北側にある駐車場の位置に改築し、併せて越前市高瀬トレーニングセンターの機能を統合して複合化します。
- ・平成 25 年度に基本設計を実施し、平成 26 年度に実施設計、平成 27 年度から平成 28 年度までの間に建設工事を行います。



■評価

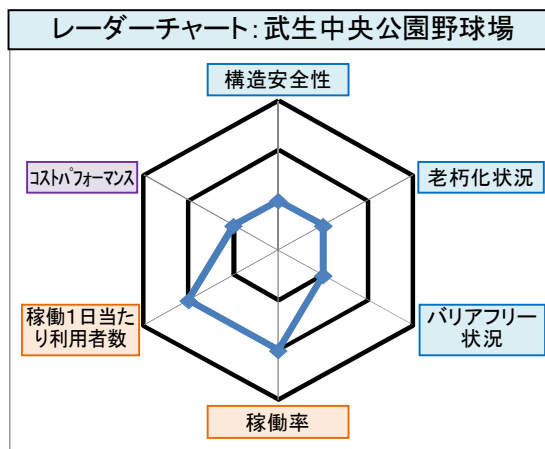
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	耐震診断の結果、耐震性を有している
老朽化状況	C	建設後の経過年数：46年 > 40年
バリアフリー状況	A	身障者トイレあり/大きな段差なし（スロープあり）
稼働率	A	稼働率：1.0 > 0.9 運営日数：360日、稼働日数：359日
稼働1日当たりの利用者数	A	偏差値：68.3 > 55 稼働1日当たりの利用者数：157.2人、利用者数：56,444人
コスト状況	B	偏差値：45 < 50.2 < 55 利用者1人当たりのコスト：248円/人



《 武生中央公園野球場：統合（機能移転）【更新】 》

建設年度：昭和 40 年度

- 武生中央公園野球場は、建設後 45 年以上が経過し、老朽化が進んでいます。また、スタンドのコンクリート部分に大きな亀裂が生じているなど、構造、安全上も課題を有しています。
- 市内における硬式野球の公式戦が可能な唯一の野球場でしたが、平成 25 年度に丹南総合公園野球場及び多目的グラウンドが竣工したため、これまで武生中央公園野球場が担ってきた機能は、丹南総合公園野球場及び多目的グラウンドへと移転します。
- 平成 25 年度内に武生中央公園野球場は機能廃止し、平成 26 年度以降に武生中央公園再整備計画に基づき再整備します。



■評価

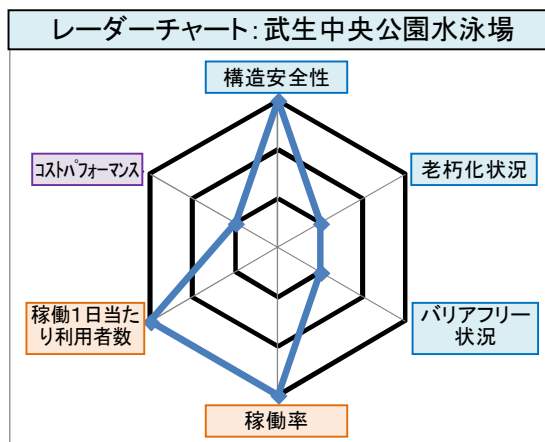
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	目視点検の結果、スタンドのコンクリート部分に大きな亀裂が生じている
老朽化状況	C	建設後の経過年数：48年 > 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差あり
稼働率	B	稼働率：0.6 < 0.67 < 0.9 運営日数：264日、稼働日数：179日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 47.3 < 55 稼働1日当たりの利用者数：41.5人、利用者数：7,427人
コスト状況	C	偏差値：59.9 > 55 利用者1人当たりのコスト：840円/人



《 武生中央公園水泳場：統合（集約化）【改修】 》

建設年度：昭和40年度

- ・武生中央公園水泳場は、稼働率及び稼働1日あたりの利用者数は高い状況にありますが、建設後45年以上が経過し、老朽化が進んでいます。また、維持管理に要する人件費など比較的多額の経費を要しています。
- ・このため、2つある幼児用プールを1つにするなど(規模縮小)の見直しを行い、コストの削減を図ります。



■評価

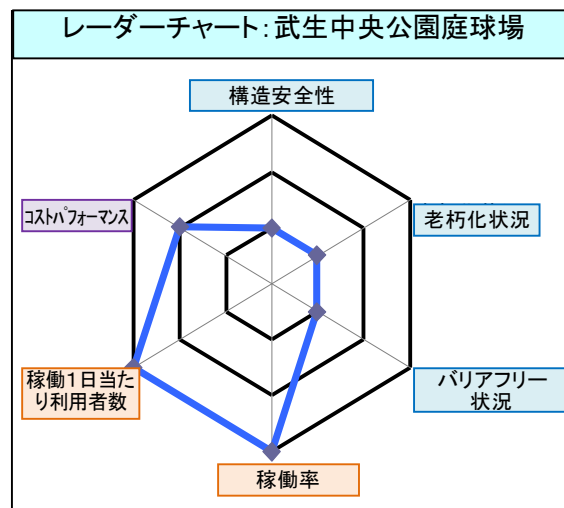
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造上の問題は認められない
老朽化状況	C	建設後の経過年数：48年 > 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差あり
稼働率	A	稼働率：0.95 > 0.9 運営日数：43日、稼働日数：41日
稼働1日当たりの利用者数	A	偏差値：58.9 > 55 稼働1日当たりの利用者数：188.4人、利用者数：7,725人
コスト状況	C	偏差値：62.6 > 55 利用者1人当たりのコスト：2,188円/人



《 武生中央公園庭球場：維持【改修】 》

建設年度：昭和 42 年度

- ・ 武生中央公園庭球場は、稼働率及び稼働 1 日あたりの利用者数は高い状況にありますが、建設後 45 年以上が経過し、老朽化が進んでいます。また、福井国体のソフトテニス競技会場となることから、全国大会が開催できる施設水準を整える必要があります。
- ・ このため、コート 8 面、コンクリート壁の改修を行います。
- ・ 平成 26 年度に実施設計を行い、平成 27 年度から平成 28 年度までの間に改修工事を行います。



■ 評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	目視点検の結果、コンクリート壁部分に大きな亀裂が生じている
老朽化状況	C	建設後の経過年数： <u>46年</u> > 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差あり
稼働率	A	稼働率： <u>1.00</u> > 0.9 運営日数：284日、稼働日数：284日
稼働1日当たりの利用者数	A	偏差値： <u>65.5</u> > 55 稼働1日当たりの利用者数：146.6人、利用者数：41,644人
コスト状況	B	偏差値：45 < <u>48.0</u> < 55 利用者1人当たりのコスト：202円/人

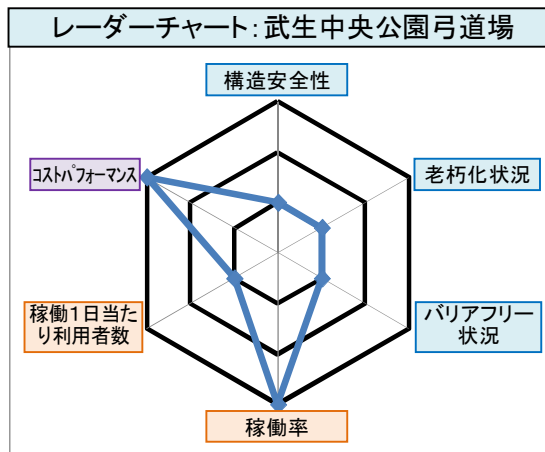


《 武生中央公園弓道場：統合（機能移転）【更新】 》

建設年度：昭和 46 年度

構造：木造

- ・武生中央公園弓道場は、建設後 40 年以上が経過し、老朽化が進んでいます。また、施設規模が小さく近的競技には対応していますが、遠的競技に対応できていないことなどから、稼働率は高いものの稼働 1 日当たりの利用者数が少ない状況にあります。
- ・このため、武生第二中学校隣接地に新弓道場を建設し、弓道場機能を移転し、跡地については武生中央公園再整備計画に基づき整備します。
- ・平成 25 年度内に新弓道場を竣工、平成 26 年度より機能移転します。



■評価

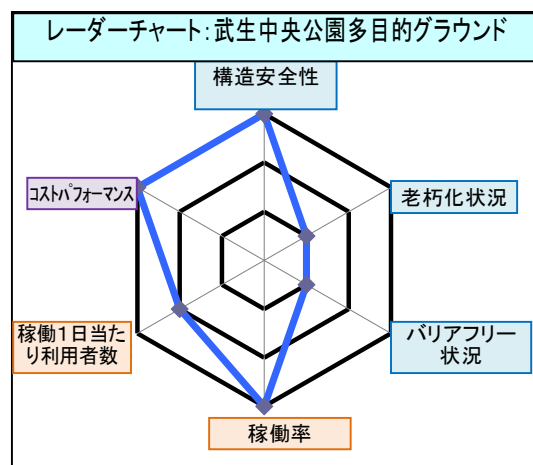
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	旧耐震基準により設計されており、耐震診断が未実施である
老朽化状況	C	建設後の経過年数：42年 > 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差あり
稼働率	A	稼働率：0.99 > 0.9 運営日数：360日、稼働日数 357日
稼働1日当たりの利用者数	C	偏差値：43.3 < 45 稼働1日当たりの利用者数：10.2人、利用者数：3,649人
コスト状況	A	偏差値：41.6 < 45 利用者1人当たりのコスト：189円/人



《 武生中央公園多目的グラウンド：維持【改修】 》

建設年度：昭和 29 年度

- ・武生中央公園多目的グラウンドは、主にサッカー競技場として使用されており稼働率は高い状況にあります。
- ・このため体育館や武生中央公園全体の再整備の実施に伴い、瓜生水と緑公園隣接地にサッカー場の機能を移転整備します。
- ・瓜生水と緑公園隣接地に整備するサッカー場は、平成 26 年度から実施設計及び敷地造成、芝生化などを実施します。



■ 評価

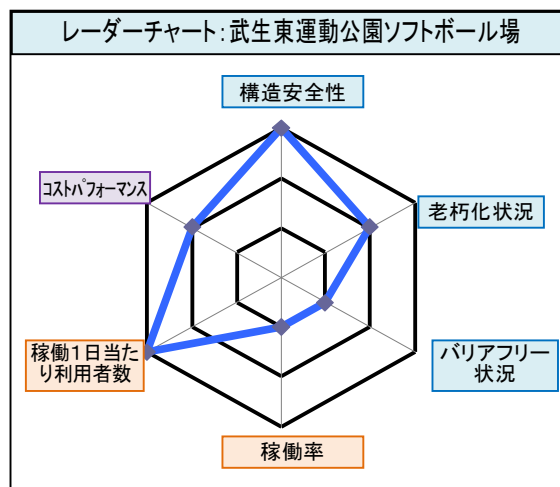
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造上の問題は認められない
老朽化状況	C	建設後の経過年数：59年 > 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差あり
稼働率	A	稼働率：0.92 > 0.9 運営日数：220日、稼働日数 203日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 50.6 < 55 稼働1日当たりの利用者数：65.5人、利用者数：13,297人
コスト状況	A	偏差値：42.3 < 45 利用者1人当たりのコスト：92円/人



《 武生東運動公園ソフトボール場：維持【改修】 》

建設年度：昭和 52 年度

- ・ 武生東運動公園ソフトボール場は、建設後 35 年以上が経過し、今後、ナイター照明施設等の老朽化が進むことが想定されます。また、福井国体のソフトボール競技会場となることから、全国大会が開催できる施設水準を整える必要があります。
- ・ このため、フィールドの改修などを行います。
- ・ 平成 27 年度に実施設計を行い、平成 28 年度に改修工事を行います。



■ 評価

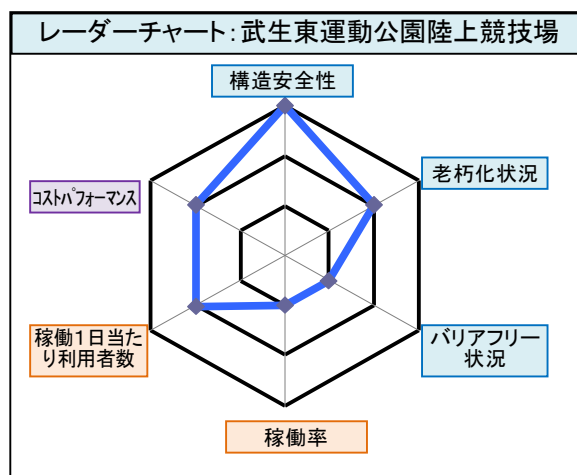
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造上の問題は認められない
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20 年 < 36 年 < 40 年
パリアフリー状況	C	身障者トイレなし/段差のない経路あり
稼働率	C	稼働率：0.2 < 0.6 運営日数：264 日、稼働日数 54 日
稼働1日当たりの利用者数	A	偏差値：59.5 > 55 稼働1日当たりの利用者数：130.1 人、利用者数：7,024 人
コスト状況	B	偏差値：45 < 53.1 < 55 利用者1人当たりのコスト：548 円/人



《 武生東運動公園陸上競技場：維持【改修】 》

建設年度：昭和 57 年度

- ・武生東運動公園陸上競技場は、建設後 30 年以上が経過しています。現在、日本陸上競技連盟の第 2 種公認を受けている陸上競技場です。
- ・しかし、平成 25 年年度の公認基準改正により、第 2 種を継続するには、大規模な改修（観客席の増設、幅跳び施設の増設、円盤投・ハンマー投用囲いの改修）が必要となるため、公認の見直しを含め検討を行います。
- ・また、フィールドの芝の張り替えなど、機能水準を向上するための改修を行います。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造上の問題は認められない
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20 年 < 31 年 < 40 年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/芝生スタンドには大きな段差あり
稼働率	C	稼働率：0.48 < 0.6 運営日数：264 日、稼働日数 129 日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 53.6 < 55 稼働1日当たりの利用者数：87.7 人、利用者数：11,314 人
コスト状況	B	偏差値：45 < 48.8 < 55 利用者1人当たりのコスト：370 円/人



《 今立中央公園水泳場：統合（集約化）【廃止】 》

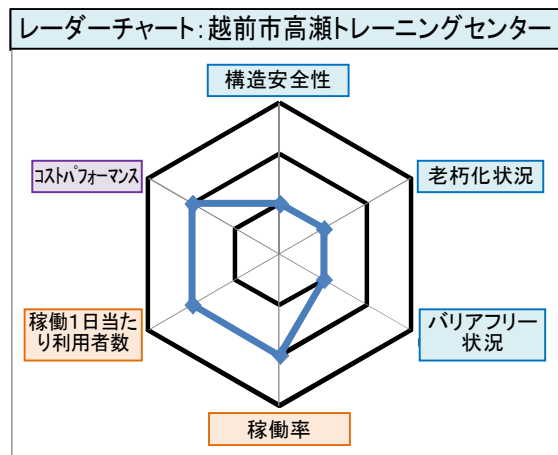
・今立中央公園水泳場は、平成 25 年 4 月 1 日から廃止しています。

《 越前市高瀬トレーニングセンター：統合（機能移転）【廃止】 》

建設年度：昭和 52 年度

構造：鉄骨造

- ・越前市高瀬トレーニングセンターは、ウェイトリフティング、ボクシング、卓球、レスリングの競技施設であり、建設後 35 年以上が経過して老朽化が進んでいます。
- ・福井国体の開催に向けて改築される武生中央公園体育館においてトレーニングセンター機能を付加する計画です。
- ・このため、越前市高瀬トレーニングセンターは、武生中央公園体育館の改築後、平成 29 年度に機能を移転し廃止します。



■評価

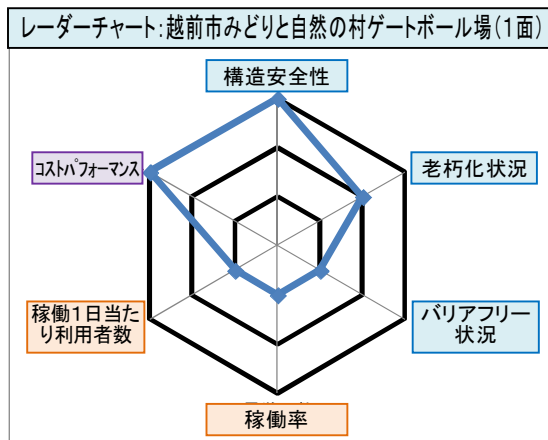
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	旧耐震基準により設計されており、耐震診断が未実施である
老朽化状況	C	建設後の経過年数： <u>36年</u> >30年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差あり
稼働率	B	稼働率： $0.6 < \underline{0.88} < 0.9$ 運営日数：307日、稼働日数269日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値： $45 < \underline{50} < 55$ 稼働1日当たりの利用者数：3.9人、利用者数：1,055人
コスト状況	B	偏差値： $45 < \underline{50} < 55$ 利用者1人当たりのコスト：284円/人



《 越前市みどりと自然の村ゲートボール場：統合（集約化）【廃止】 》

建設年度：昭和 62 年度

- ・越前市みどりと自然の村ゲートボール場は、建設後 25 年以上が経過しています。市の中心部から離れた立地条件もあり、近年はほとんど利用実績がありません。
- ・このため、越前市みどりと自然の村ゲートボール場は、実施計画期間に跡地利用の方針決定を行い、廃止します。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造上の問題は認められない
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20年 < 26年 < 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	C	稼働率：0.01 < 0.6 運営日数：195日、稼働日数1日
稼働1日当たりの利用者数	C	偏差値：41.3 < 45 稼働1日当たりの利用者数：10人、利用者数：10人
コスト状況	A	偏差値：35.9 < 45 利用者1人当たりのコスト：40円/人



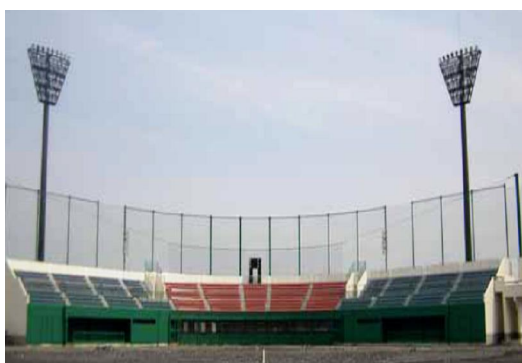
イ 新たなスポーツ施設の整備

《 丹南総合公園 》

・丹南総合公園は、丹南地域の広域的なレクリエーション施設として、文化、スポーツ、自然散策などの利用に対応した面積15.5haの県営の総合公園です。スポーツ施設としては、野球場（平成25年供用開始）、体育館（平

成26年供用開始予定）、多目的グラウンド（平成25年供用開始）、ゲートボール場（平成26年供用開始）、全天候型球技場（平成26年供用開始）があります。

スポーツ施設	規模	施設水準
野球場	13,500 m ²	両翼：100m センター：122m 内野スタンド：収容人員1,500人 外野スタンド：収容人員2,000人 ナイター照明塔：6基
体育館	2,130 m ² (延床面積)	バレーボールコート：2面 バスケットコート：2面 バドミントンコート：8面 公園管理事務所、男女更衣室、シャワー室、トイレ
多目的グラウンド	14,240 m ²	ソフトボールグラウンド：2面 野球グラウンド：1面 少年サッカーコート：2面 公式サッカーコート：1面 ナイター照明塔：8基
ゲートボール場	550 m ²	ゲートボールコート：1面（屋外）
全天候型球技場	1,150 m ² (延床面積)	ゲートボールコート：2面（屋根付き）



丹南総合公園野球場



丹南総合公園体育館完成予想図

《 越前市総合体育館 (仮称) 》

- ・平成 30 年の福井国体の開催に向け、本市が会場となるフェンシングを始めとした各種競技の競技力の向上を図っていくため、武生中央公園内に現在の体育館に替わる新たな越前市総合体育館(仮称)を建設します。
- ・バレーボール、バスケットボール、バドミントン等の競技のほか、フェンシング、越前市高瀬トレーニングセンターなどの機能を備えた拠点的・複合的な体育館として整備します。

《 越前市弓道場 (仮称) 》

- ・武生中央公園弓道場は、遠的場がないため、武生第二中学校の隣接地に遠的場も備えた弓道場を整備します。

《 新サッカー場 (仮称) 》

- ・瓜生水と緑公園に隣接する市有地に新たにサッカー場(人工芝グラウンド)を整備し、武生中央公園多目的グラウンドのサッカー場の機能を移転します。

ウ 前期5年の実施計画の概要

施設名称	再配置方針	実施予定年度
武生中央公園体育館	体育館機能と越前市高瀬トレーニングセンター機能を併せ持つ越前市総合体育館(仮称)として改築し複合化を図ります。	平成 27 年度から平成 28 年度
武生中央公園野球場	昭和 40 年開設から、48 年が経過し、老朽化が著しくバリアフリーなど施設の構造にも課題があり、利用者の安全性をはかるため、平成 25 年 9 月 21 日に開催された、丹南総合公園野球場及び多目的グラウンドに機能移転し廃止する。	平成 25 年度
武生中央公園水泳場	昭和 40 年開設から 48 年が経過し、老朽化が著しく、バリアフリーなど課題もある。今立中央公園水泳場の機能を集約し改修を行う。	平成 27 年度から平成 28 年度
武生中央公園庭球場	平成 30 年に開催される福井国体ソフトテニスの競技会場となっているが昭和 42 年度開設から、46 年が経過し、老朽化が著しくテニスコート8面の改修を行う。	平成 27 年度から平成 28 年度
武生中央公園弓道場	昭和 46 年開設から、42 年が経過し、老朽化が著しく、利用者の安全確保と機能向上をはかるため新弓道場を新築し平成 26 年 4 月(予定)完成後に機能を移転し廃止する。	平成 25 年度
武生中央公園多目的グラウンド	昭和 29 年開設から、59 年が経過し、老朽化が著しく、たけふ菊人形の駐車場として利用され稼働日数も制限されている。専用サッカー競技場機能を、瓜生水と緑公園隣接地に移転し、多目的利用を可能とする。	平成 27 年度

武生東運動公園ソフトボール場	昭和 52 年開設から 36 年が経過し、老朽化が著しい。また、平成 30 年に開催される福井国体開催ソフトボール競技の会場となっているが、フィールドは、不陸が発生しているため、国体競技施設基準に適合していないので改修を行う。	平成 28 年度
武生東運動公園陸上競技場	フィールドの芝生の張り替えによる機能強化を図る。また、公認取得に向けた改修を行う。	平成 26 年度から平成 27 年度
今立中央公園水泳場	昭和 52 年開設から 36 年が経過、武生中央公園水泳場へ機能が集約され廃止された。	平成 25 年 4 月 1 日廃止済
越前市高瀬トレーニングセンター	昭和 52 年開設から 36 年が経過し、老朽化が著しい。利用者の安全を確保するため廃止し、平成 30 年に開催される福井国体に向けて改築される越前市総合体育館(仮称)に機能を移転する。	平成 29 年度
越前市みどりと自然の村ゲートボール場	昭和 62 年から 26 年が経過している。稼働実績が少なく、利用者もいない状況である。跡地利用方針を決定し廃止する。	平成 26 年度から平成 30 年度

エ 実施計画年次プログラム(現行施設)

				平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
				福井国体スケジュール				
施設名称	再配置の方針	整備の方針		平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
武生中央公園体育館	統合 (複合化)	【更新】福井国体に向け現体育館の北側駐車場に越前市総合体育館(仮称)を改築(下表①)	スケジュール	実施設計	改築	改築		
武生中央公園野球場	統合 (機能移転)	【更新】丹南総合公園野球場及び多目的グラウンドに機能移転(下表④)	スケジュール	新築				
武生中央公園水泳場	統合 (集約化)	【改修】幼児用プールの規模縮小	スケジュール	実施設計	改修			
武生中央公園庭球場	維持	【改修】国体に向けた改修(コート8面)	スケジュール	実施設計	改修	改修		
武生中央公園弓道場	統合 (機能移転)	【更新】越前市弓道場(仮称)完成後に機能移転(下表②)	スケジュール	新築				
武生中央公園多目的グラウンド	統合 (機能移転)	【改修】福井国体に向けた新体育館建設に伴いサッカー場機能を瓜生水と緑公園隣接地に機能移転し新サッカー場を建設(下表③)	スケジュール	実施設計	改修			
武生東運動公園ソフトボール場	維持	【改修】福井国体に向けフィールド改修	スケジュール		実施設計	改修		
武生東運動公園陸上競技場	統合 (複合化)	【改修】フィールドの芝の張り替え。公認更新に向けた改修	スケジュール	改修 (芝張替)	改修 (公認)	公認取得		
今立中央公園水泳場	統合 (集約化)	【廃止】平成 25 年 4 月 1 日に廃止	スケジュール					
越前市高瀬トレーニングセンター	統合 (機能移転)	【廃止】武生中央公園体育館の改築に合わせて機能を移転し、越前市総合体育館(仮称)に複合化した後、廃止	スケジュール				機能移転	
越前市みどりと自然の村ゲートボール場	統合 (集約化)	【廃止】実施計画期間に跡地利用の方針決定を行い、廃止	スケジュール	廃 止				

オ 実施計画年次プログラム(新規施設で表記)

施設名称	再配置方針		平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
①越前市総合体育館(仮称)	平成 30 年開催の福井国体に向け、フェンシング競技会場などを備えた総合体育館を整備	スケジュール	実施設計	改築	改築		
②越前市弓道場(仮称)	遠的場を備えたより多くの利用が見込まれる弓道場として武生中央公園弓道場から移転し整備	スケジュール	供用開始				
③新サッカー場(仮称)	サッカー場機能を武生中央公園多目的グラウンドから移転し整備	スケジュール	実施設計	建設	建設		
④丹南総合公園野球場・多目的グラウンド	丹南地域の広域的なレクリエーション施設として野球場、多目的グラウンドを整備(県施設)	スケジュール	※平成 25 年 9 月 21 日供用開始				

(3)基本計画(後期5年間)

ア 施設ごとの方向性(実施計画対象以外)	42
・ 武生東運動公園庭球場	42
・ 帆山公園庭球場	43
・ 帆山公園相撲場	44
・ 家久スポーツ公園庭球場	45
・ 家久スポーツ公園温水プール	46
・ 家久スポーツ公園ソフトボール場	47
・ 今立中央公園多目的広場	48
・ 今立南部公園庭球場	49
・ 白崎公園屋内ゲートボール場	50
・ 瓜生水と緑公園体育館	51
・ 越前市武道館	52
・ 越前市みどりと自然の村テニスコート	53
・ 越前市北新庄体育館	54
・ 越前市北日野体育館	55
・ 越前市大虫体育館	56
・ 越前市武生体育センター	57
・ 越前市今立体育センター	58
・ 越前市今立ふれあいプラザ	59
・ 越前市粟田部体育館	60
・ 越前市今立テニスコート	61

(3)基本計画(後期5年間)

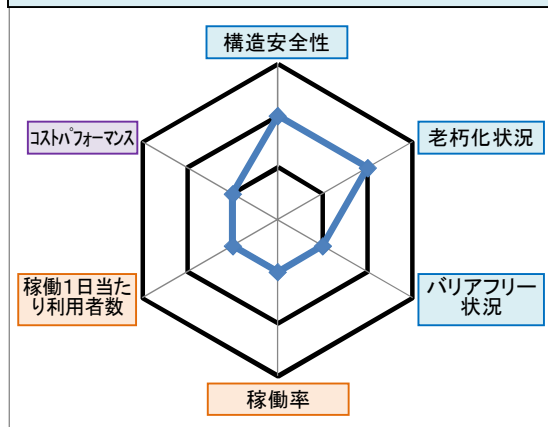
ア 施設ごとの方向性(実施計画対象以外)

《 武生東運動公園庭球場：統合（集約化） 》

建設年度：昭和 56 年度

- 武生東運動公園庭球場は、建設後 30 年以上が経過しています。クレールコート表面の粘土化やハードコートの亀裂発生、表面劣化など老朽化が進行しつつあります。また、稼働 1 日当たりの利用者数は、帆山公園庭球場に次いで少ない状況にあります。
- このため、コートの改修を行う武生中央公園庭球場の機能充実等同種施設の状況を踏まえ、実施計画期間中に統合の方針を決定し、基本計画期間中に統廃合を実施します。

レーダーチャート:武生東運動公園庭球場(6面)



■評価

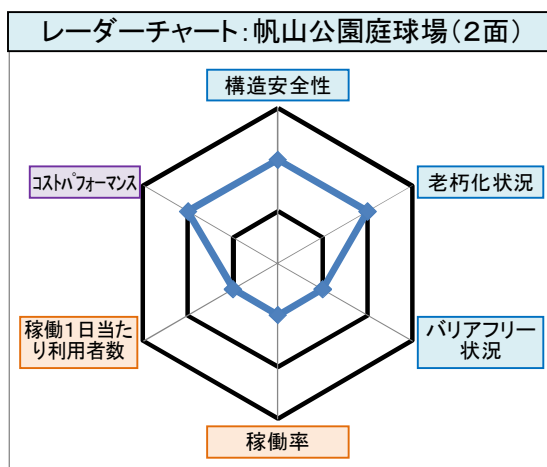
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、フェンスに塗装の剥離、錆が認められる
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20年 < 32年 < 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/段差のない経路あり
稼働率	C	稼働率：0.53 < 0.6 運営日数：264日、稼働日数 141日
稼働1日当たりの利用者数	C	偏差値：43.2 < 45 稼働1日当たりの利用者数：15人、利用者数：2,108人
コスト状況	C	偏差値：60.4 > 55 利用者1人当たりのコスト：803円/人



《 帆山公園庭球場：統合（集約化） 》

建設年度：昭和 51 年度

- ・帆山公園庭球場は、建設後 35 年以上が経過しています。コート全体にわたって大きな亀裂が発生するなど老朽化が進行しています。また、稼働 1 日当たりの利用者数は市内庭球場で最も少ない状況です。
- ・このため、コートの改修を行う武生中央公園庭球場の機能充実等同種施設の状況を踏まえ、実施計画期間中に統合の方針を決定し、基本計画期間に統廃合を実施します。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	目視点検の結果、フェンスの塗装に剥離、たわみが生じている
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20年 < 37年 < 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	C	稼働率：0.48 < 0.6 運営日数：264日、稼働日数133日
稼働1日当たりの利用者数	C	偏差値：42 < 45 稼働1日当たりの利用者数：7.7人、利用者数：1,029人
コスト状況	B	偏差値：45 < 53.0 < 55 利用者1人当たりのコスト：444円/人

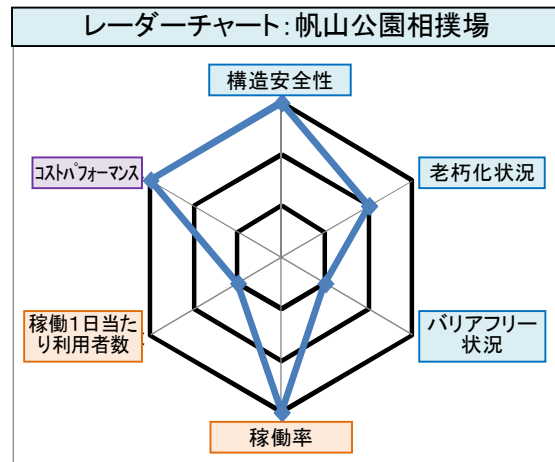


《 帆山公園相撲場：維持 》

建設年度：昭和 50 年度

構造：鉄骨造

- ・帆山公園相撲場は、建設後 35 年以上が経過しています。スポーツ人口は 100 人ですが、近年の利用者数は、少ない状況です。
- ・帆山公園相撲場は、市内唯一の屋根付きの相撲場であり当面は機能を維持します。



■評価

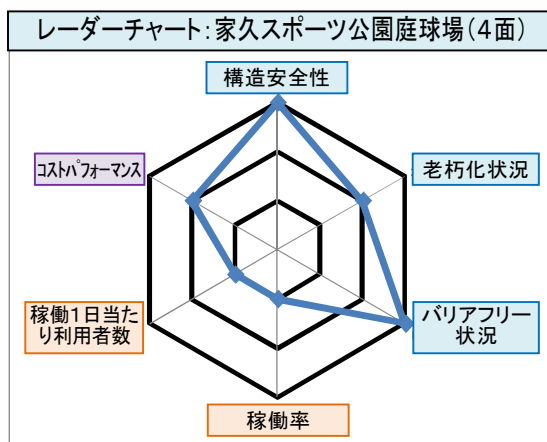
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造上の問題は認められない
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20 年 < 38 年 < 40 年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	A	稼働率： $1.0 > 0.9$ 運営日数：1 日、稼働日数 1 日
稼働1日当たりの利用者数	C	偏差値： $44.7 < 45$ 稼働 1 日当たりの利用者数：16 人、利用者数：16 人
コスト状況	A	偏差値： $34.9 < 45$ 利用者 1 人当たりのコスト：25 円/人



《 家久スポーツ公園庭球場：統合（集約化） 》

建設年度：昭和 59 年度

- ・家久スポーツ公園庭球場は、バリアフリーには対応済みであり、東西方向の幹線道路沿いの恵まれた立地条件にあります。建設後 25 年以上が経過しています。
- ・コート改修を行う武生中央公園庭球場の機能充実等と同種施設の状況を踏まえ、実施計画期間中に統合の方針を決定し、基本計画期間に統廃合を実施します



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造上の問題は認められない
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20年 < 29年 < 40年
バリアフリー状況	A	身障者トイレあり/大きな段差なし
稼働率	C	稼働率：0.59 < 0.6 運営日数：264日、稼働日数 156日
稼働1日当たりの利用者数	C	偏差値：43.6 < 55 稼働1日当たりの利用者数：17.4人、利用者数：2,722人
コスト状況	B	偏差値：45 < 47.7 < 55 利用者1人当たりのコスト：189円/人



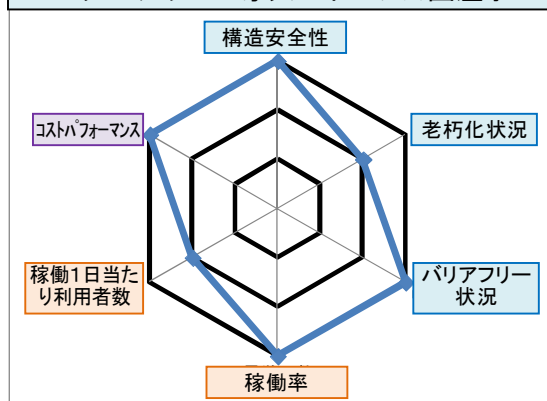
《 家久スポーツ公園温水プール：維持 》

建設年度：昭和 59 年度

構造：鉄筋コンクリート造

- ・家久スポーツ公園温水プールは、バリアフリーには対応済みであり、東西方向の幹線道路沿いの恵まれた立地条件にあります。建設後 25 年以上が経過しています。
- ・市の水泳場としては唯一年間を通じて利用できる施設として、今後とも機能を維持するために計画的に修繕を行います。

レーダーチャート：家久スポーツ公園温水プ



■ 評価

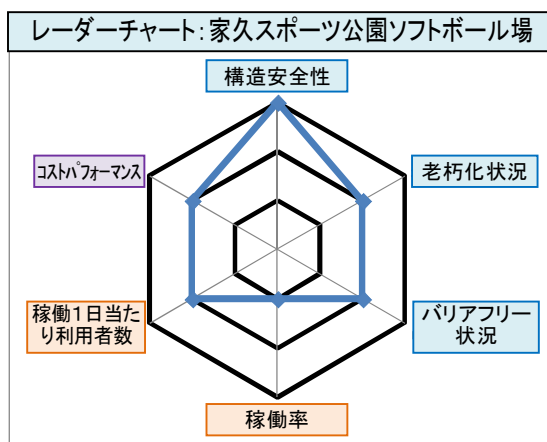
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準により設計されている
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20 年 < 29 年 < 40 年
バリアフリー状況	A	身障者トイレあり/大きな段差なし
稼働率	A	稼働率：0.99 > 0.9 運営日数：306 日、稼働日数 304 日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 48.8 < 55 稼働1日当たりの利用者数：50.5 人、利用者数：15,340 人
コスト状況	A	偏差値：43.6 < 45 利用者1人当たりのコスト：1,538 円/人



《家久スポーツ公園ソフトボール場：維持》

建設年度：昭和59年度

- ・家久スポーツ公園ソフトボール場は、身障者用トイレは整備済みであり、東西方向の幹線道路沿いの恵まれた立地条件にあります。建設後25年以上が経過しています。
- ・今後とも機能を維持するために計画的に修繕を行います。



■評価

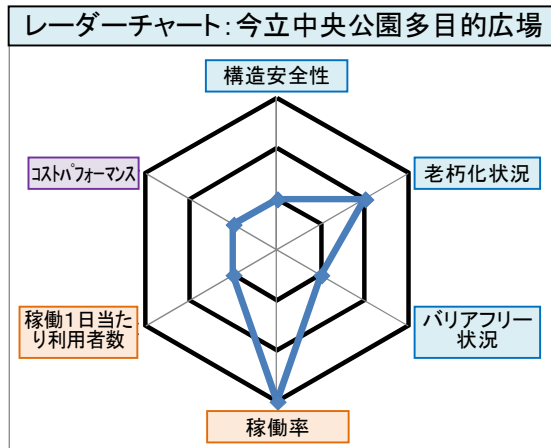
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造上の問題は認められない
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20年 < 29年 < 40年
バリアフリー状況	B	身障者トイレあり/スタンドの段差、階段にスロープなし
稼働率	C	稼働率：0.40 < 0.6 運営日数：264日、稼働日数105日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 47.0 < 55 稼働1日当たりの利用者数：39.5人、利用者数：4,149人
コスト状況	B	偏差値：45 < 49.0 < 55 利用者1人当たりのコスト：377円/人



《 今立中央公園多目的広場：維持 》

建設年度：昭和 51 年度

- ・今立中央公園多目的広場は、建設後 35 年以上が経過しています。ナイター照明施設に腐食等が発生するなどの老朽化が進行しつつあります。
- ・機能を維持するため、平成 26 年から平成 28 年までの間にナイター照明施設の劣化度を調査し、調査結果を踏まえて修繕します。



■評価

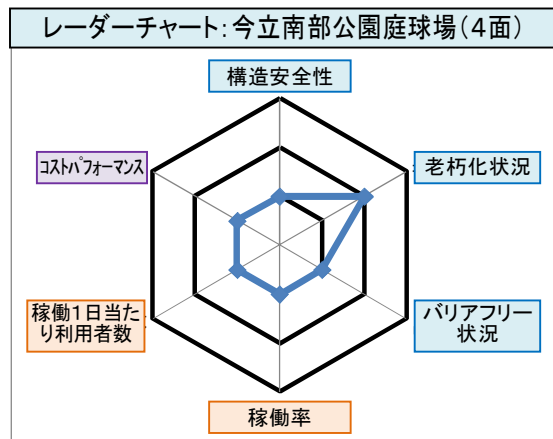
評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	照明施設の設備の一部が落下する事案が発生している 目視点検の結果、照明施設に塗装の剥離、腐食が生じている
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20年 < 37年 < 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	A	稼働率：1.00 > 0.6 運営日数：264日、稼働日数 264日
稼働1日当たりの利用者数	C	偏差値：44.7 < 45 稼働1日当たりの利用者数：22.6人、利用者数：1,198人
コスト状況	C	偏差値：70.7 > 55 利用者1人当たりのコスト：1,296円/人



《 今立南部公園庭球場：統合（集約化） 》

建設年度：昭和 60 年度

- ・今立南部公園庭球場は、建設後 25 年以上が経過しています。ナイター照明施設に腐食等が発生するなどの老朽化が進行しつつあります。
- ・コート改修を行う武生中央公園庭球場の機能充実等と同種施設の状況を踏まえ、実施計画期間中に統合の方針を決定し、基本計画期間中に統廃合を実施します。



■ 評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	目視点検の結果、照明施設に塗装の剥離、腐食が生じている
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20年 < 28年 < 40年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差あり
稼働率	C	稼働率：0.50 < 0.6 運営日数：264日、稼働日数 132日
稼働1日当たりの利用者数	C	偏差値：44 < 45 稼働1日当たりの利用者数：20人、利用者数：2,636人
コスト状況	C	偏差値：69.8 > 55 利用者1人当たりのコスト：1,259円/人

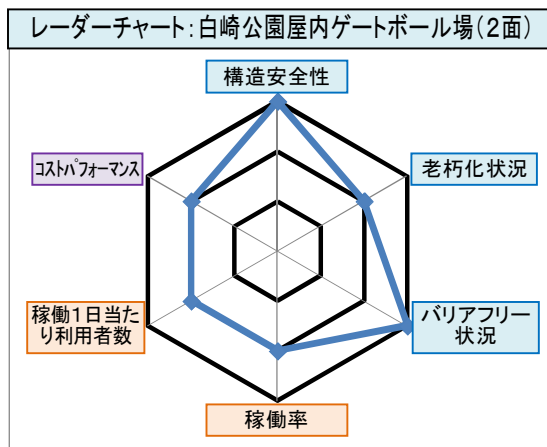


《 白崎公園屋内ゲートボール場：維持 》

建設年度：平成2年度

構造：鉄骨造

- ・白崎公園屋内ゲートボール場は、建設後20年以上が経過しています。市のゲートボール場として唯一の屋内施設であり、バリアフリーに対応済みです。
- ・高齢社会におけるシニア層を中心としたゲートボールのニーズに対応する施設として、今後とも機能を維持するため計画的に修繕を行います。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準により設計されている
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20年<23年<40年
バリアフリー状況	A	身障者トイレあり/大きな段差のない経路あり
稼働率	B	稼働率：0.6<0.77<0.9 運営日数：307日、稼働日数237日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45<50<55 稼働1日当たりの利用者数：27.1人、利用者数：6,433人
コスト状況	B	偏差値：45<50<55 利用者1人当たりのコスト：337円/人

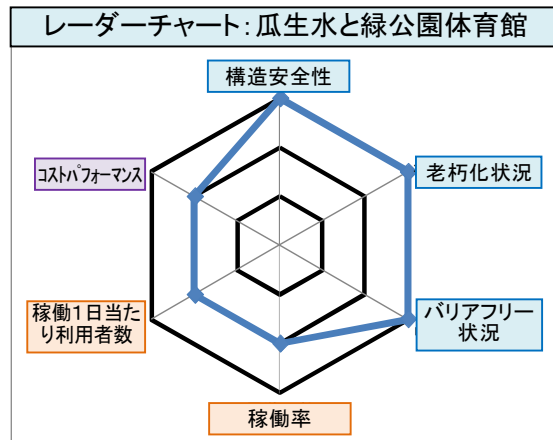


《 瓜生水と緑公園体育館：維持 》

建設年度：平成 22 年度

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造

- ・ 瓜生水と緑体育館は、建設後 5 年未満の新しい施設です。構造安全性や老朽化状況、バリアフリー状況は良好ですが、稼働 1 日当たりの利用者数は、体育館 9 施設の中でも少ない状況にある。
- ・ 今後とも機能を維持するため計画的な修繕を行います。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準により設計されている
老朽化状況	A	建設後の経過年数：3年 < 20年
バリアフリー状況	A	身障者トイレあり/大きな段差なし
稼働率	B	稼働率：0.6 < 0.76 < 0.9 運営日数：307日、稼働日数 233日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 45.1 < 55 稼働1日当たりの利用者数：19.4人、利用者数：4,530人
コスト状況	B	偏差値：45 < 49.9 < 55 利用者1人当たりのコスト：241円/人

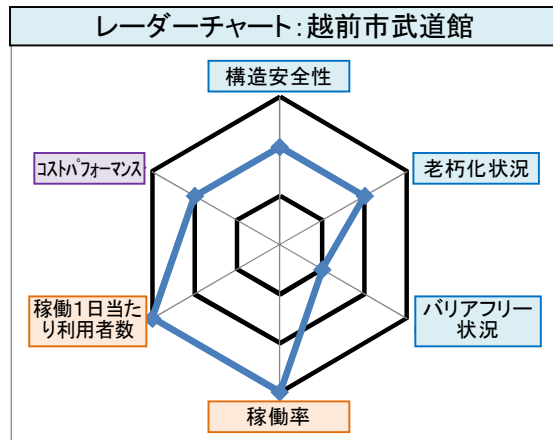


《 越前市武道館：維持 》

建設年度：昭和 54 年度

構造：鉄筋コンクリート造

- ・越前市武道館は、建設後 30 年以上が経過しています。稼働率、稼働 1 日当たりの利用者数ともに高い状況ですが、バリアフリーには対応できていません。
- ・今後は、床の張り替えや空調設備などの改修が必要になると考えられます。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	B	耐震診断の結果、ある程度の耐震性を有している。 Is 値：0.61
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20 年 < 34 年 < 40 年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	A	稼働率：0.96 > 0.9 運営日数：307 日、稼働日数 296 日
稼働1日当たりの利用者数	A	偏差値：58.1 > 55 稼働 1 日当たりの利用者数：71 人、利用者数：21,011 人
コスト状況	B	偏差値：45 < 51.5 < 55 利用者 1 人当たりのコスト：434 円/人

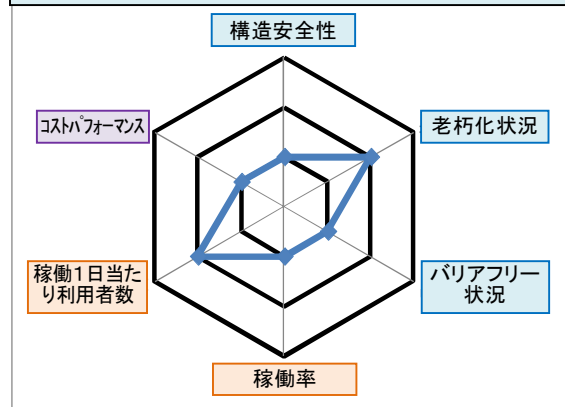


《 越前市みどりと自然の村テニスコート：統合（集約化） 》

建設年度：昭和 56 年度

- ・越前市みどりと自然の村テニスコートは、建設後 30 年以上が経過しています。市の中心部から離れた立地条件もあり、稼働率が低い状況にあり、利用者数も伸びが期待できない状況です。
- ・このため、コートの改修を行う武生中央公園庭球場の機能充実等同種施設の状況を踏まえ、実施計画期間中に統合の方針を決定し、基本計画期間に統廃合を実施します。

レーダーチャート:越前市みどりと自然の村テニスコート(4面)



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	目視点検の結果、コンクリート壁に大きな亀裂が生じている
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20 年 < 32 年 < 40 年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	C	稼働率：0.37 < 0.6 運営日数：195 日、稼働日数 74 日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 47.3 < 55 稼働1日当たりの利用者数：39.4 人、利用者数：2,916 人
コスト状況	C	偏差値：62.1 > 55 利用者1人当たりのコスト：884 円/人

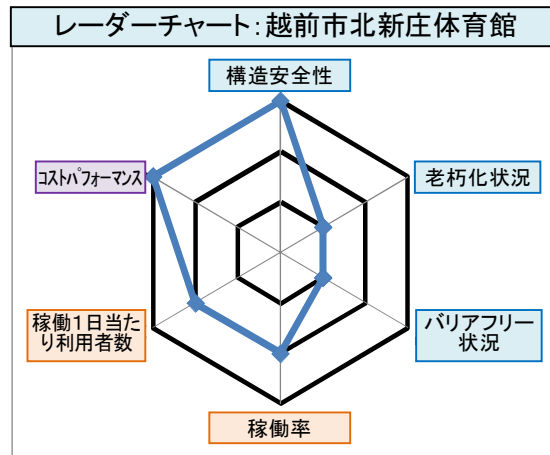


《 越前市北新庄体育館：維持 》

建設年度：昭和 56 年度

構造：鉄骨造

- ・越前市北新庄体育館は、建設後 30 年以上が経過し老朽化が進んでいます。新耐震基準で設計されていますが、バリアフリーには対応できていません。
- ・今後は、機能を維持するため計画的に修繕を行います。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準により設計されている
老朽化状況	C	建設後の経過年数： <u>32年</u> > 30年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	B	稼働率： $0.6 < \underline{0.89} < 0.9$ 運営日数：305日、稼働日数 271日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値： $45 < \underline{47.9} < 55$ 稼働1日当たりの利用者数：36人、利用者数：9,752人
コスト状況	A	偏差値： $\underline{43.4} < 45$ 利用者1人当たりのコスト：73円/人

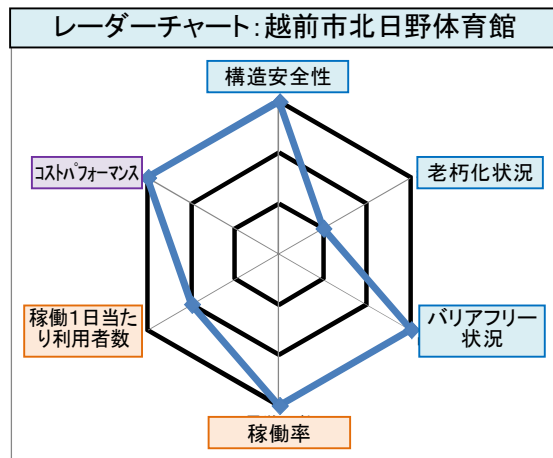


《 越前市北日野体育館：維持 》

建設年度：昭和 58 年度

構造：鉄骨造

- ・越前市北日野体育館は、建設後 30 年以上が経過し老朽化が進んでいます。新耐震基準により設計されており、バリアフリーには対応済みです。また、稼働率は高い状況です。
- ・今後は、機能を維持するため計画的に修繕を行います。



■ 評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準により設計されている
老朽化状況	C	建設後の経過年数：30年 > 30年
バリアフリー状況	A	身障者トイレあり/大きな段差なし
稼働率	A	稼働率：1.00 > 0.9 運営日数：351日、稼働日数 351日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 48.7 < 55 稼働1日当たりの利用者数：40.5人、利用者数：14,222人
コスト状況	A	偏差値：42.9 < 45 利用者1人当たりのコスト：60円/人

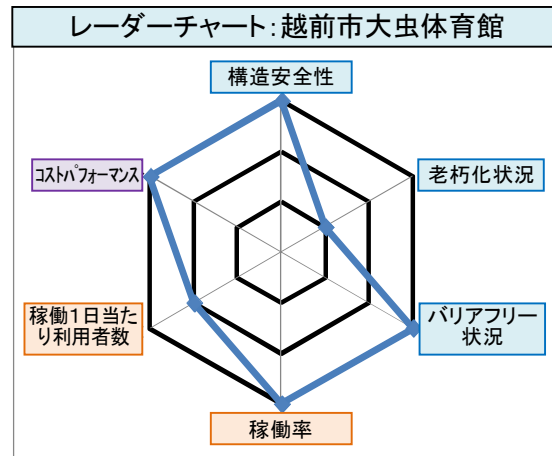


《 越前市大虫体育館：維持 》

建設年度：昭和 58 年度

構造：鉄骨造

- ・越前市大虫体育館は、建設後 30 年以上が経過し老朽化が進んでいます。新耐震基準により設計されており、バリアフリーには対応済みです。また、稼働率は高い状況です。
- ・今後は、機能を維持するため計画的に修繕を行います。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準により設計されている
老朽化状況	B	建設後の経過年数：30年 > 30年
バリアフリー状況	A	身障者トイレあり/大きな段差なし
稼働率	A	稼働率：1.00 > 0.9 運営日数：345日、稼働日数 345日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 47.6 < 55 稼働1日当たりの利用者数：33.9人、利用者数：11,691人
コスト状況	A	偏差値：43.0 < 45 利用者1人当たりのコスト：64円/人

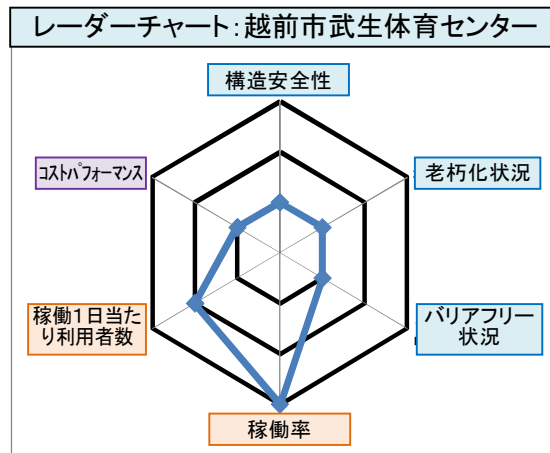


《 越前市武生体育センター：維持 》

建設年度：昭和 52 年度

構造：鉄骨造

- ・越前市武生体育センターは、建設後 35 年以上が経過し老朽化が進んでいます。稼働率は高い状況ですが、バリアフリーには対応できていません。
- ・このため、今後とも機能を維持するため実施計画期間に耐震診断を実施し、診断結果に基づき、計画的に修繕を行ういます。



■ 評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	旧耐震基準により設計されており、耐震診断が未実施である
老朽化状況	C	建設後の経過年数：36年 > 年 30 年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	A	稼働率：0.92 > 0.9 運営日数：307 日、稼働日数 283 日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 45.9 < 55 稼働1日当たりの利用者数：24 人、利用者数：6,805 人
コスト状況	C	偏差値：76.5 > 55 利用者1人当たりのコスト：925 円/人

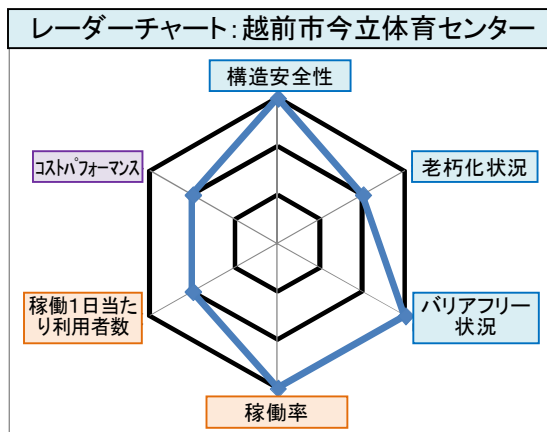


《 越前市今立体育センター：統合（集約化） 》

建設年度：昭和 58 年度

構造：鉄筋コンクリート造/鉄骨鉄筋コンクリート造

- ・越前市今立体育センターは、建設後 30 年以上が経過しています。新耐震基準により設計されており、バリアフリーには対応済みです。また、稼働率は高い状況です。
- ・今後は、実施計画期間中に利用状況や近隣の同種施設の配置状況などを総合的に勘案して最適配置の方針を決定し、基本計画期間以降に統廃合を実施します。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	新耐震基準により設計されている
老朽化状況	B	建設後の経過年数：20 年 < 30 年 < 40 年
バリアフリー状況	A	身障者トイレあり/大きな段差なし
稼働率	A	稼働率：1.0 > 0.9 運営日数：337 日、稼働日数 337 日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 48.9 < 55 稼働1日当たりの利用者数：42.1 人、利用者数：14,181 人
コスト状況	B	偏差値：45 < 52.4 < 55 利用者1人当たりのコスト：305 円/人

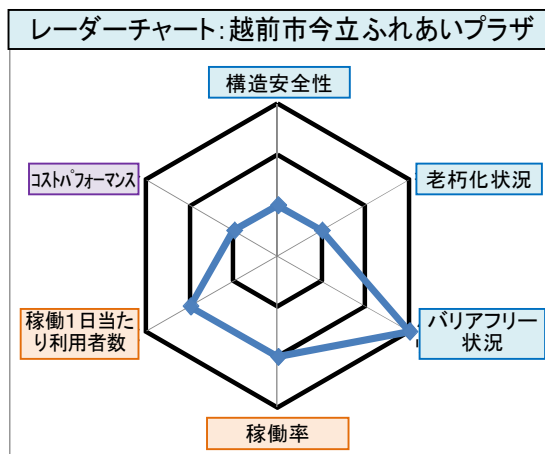


《 越前市今立ふれあいプラザ：統合（集約化） 》

建設年度：昭和 53 年度

構造：鉄骨造

- 越前市今立ふれあいプラザは、35 年以上が経過しており、老朽化が進んでおり構造安全性も低い状況にあります。体育館として設計されていないことから天井が低くバレーボールなどの球技には向かないなど、スポーツ施設としての利活用に限界があります。
- 今後は、実施計画期間中に利用状況や近隣の同種施設の統合などを総合的に勘案して最適配置の方針を決定し、基本計画期間以降に統廃合を実施します。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	耐震診断の結果、耐震性が劣る。 I_s 値：0.18
老朽化状況	C	建設後の経過年数： $\boxed{35}$ 年 > 30 年
バリアフリー状況	A	身障者トイレあり/大きな段差なし
稼働率	B	稼働率： $0.6 < \boxed{0.77} < 0.9$ 運営日数：360日、稼働日数 277日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値： $45 < \boxed{46.9} < 55$ 稼働1日当たりの利用者数：29.8人、利用者数：8,242人
コスト状況	C	偏差値： $\boxed{56.2} > 55$ 利用者1人当たりのコスト：404円/人

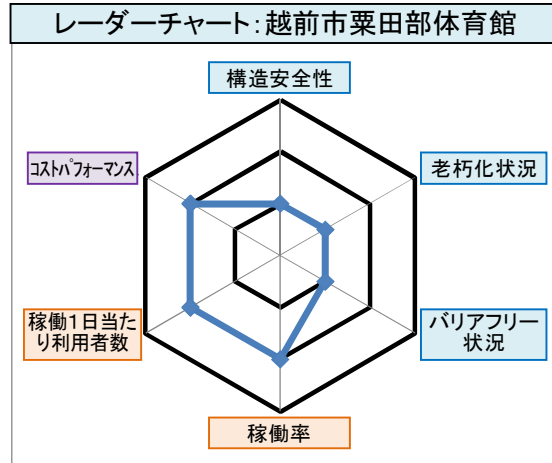


《 越前市粟田部体育館：統合（集約化） 》

建設年度：昭和 49 年度

構造：鉄骨造

- 越前市粟田部体育館は、建設後 35 年以上が経過しており、老朽化が進んでいます。また、バリアフリーに対応できていません。
- 今後は、実施計画期間中に耐震診断を行い、その結果を踏まえるとともに、利用状況や近隣の同種施設の配置状況などを総合的に勘案して最適配置の方針を決定し、基本計画期間以降に統廃合を実施します。



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	C	旧耐震基準により設計されており、耐震診断が未実施である
老朽化状況	C	建設後の経過年数：39年 > 30年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	B	稼働率：0.6 < 0.89 < 0.9 運営日数：360日、稼働日数 322日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 46.3 < 55 稼働1日当たりの利用者数：26.6人、利用者数：8,558人
コスト状況	B	偏差値：45 < 46.5 < 55 利用者1人当たりのコスト：152/人

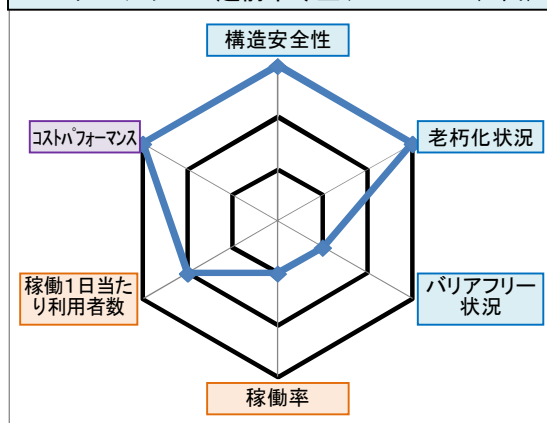


《 越前市今立テニスコート：統合（集約化） 》

建設年度：平成 13 年度

- ・越前市今立テニスコートは、建設後 15 年未満の比較的新しい施設です。
- ・コートの改修を行う武生中央公園庭球場の機能充実等同種施設の状況を踏まえ、実施計画期間中に統合の方針を決定し、基本計画期間以降に統廃合を実施します。

レーダーチャート:越前市今立テニスコート(2面)



■評価

評価項目	評価	評価内容
構造安全性	A	目視点検の結果、構造上の問題は認められない
老朽化状況	A	建設後の経過年数：12年 < 20年
バリアフリー状況	C	身障者トイレなし/大きな段差なし
稼働率	C	稼働率：0.43 < 0.6 運営日数：264日、稼働日数 115日
稼働1日当たりの利用者数	B	偏差値：45 < 46.5 < 55 稼働1日当たりの利用者数：34.3人、利用者数：3,941人
コスト状況	A	偏差値：44.2 < 45 利用者1人当たりのコスト：20円/人



3 再配置計画の全体像

平成 35 年（2023 年）を目途としたスポーツ施設全 31 施設の再配置の計画は以下のとおりです。

今後、この再配置計画を基に、再配置の必要性に対する市民の理解促進を図るとともに計画保全を実施し、市民意向の把握に努め、計画の実現に取り組みます。

※ピンクの網掛けは実施計画(前期5年間)の対象施設

No	施設名称	再配置方針		実施計画(前期5年間)					基本計画(後期5年間)					備考
		再配置の方針	整備の方針	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年	平成 33 年	平成 34 年	平成 35 年	
1	武生中央公園体育館	統合 (複合化)	【更新】福井国体に向け現体育館北側駐車場に改築	実施設計	改築	改築								総合体育館として機能を複合化し改築
2	武生中央公園野球場	統合 (機能移転)	【更新】丹南総合公園野球場及び多目的グラウンドに機能移転	新築										
3	武生中央公園水泳場	統合 (集約化)	【改修】幼児用プールの規模縮小	実施設計	改修	改修								
4	武生中央公園庭球場	維持	【改修】国体に向けた改修(コート8面)	実施設計	改修	改修								
5	武生中央公園弓道場	統合 (機能移転)	【更新】新弓道場完成後に機能移転	新築										跡地整備
6	武生中央公園多目的グラウンド	統合 (機能移転)	【改修】福井国体に向けた新体育館建設に伴いサッカー場機能を瓜生水と緑公園隣接地に機能移転	実施設計	改修									機能移転(新サッカー場は平成 26 年～平成 27 年に整備)
7	武生東運動公園ソフトボール場	維持	【改修】福井国体に向けフィールド改修		実施設計	改修								
8	武生東運動公園庭球場	統合 (集約化)	実施計画期間に方針決定	検 討					統 廃 合					基本計画期間に統廃合を実施
9	武生東運動公園陸上競技場	統合 (複合化)	【改修】フィールドの芝の張り替え。公認更新に向けた改修	改修 (芝張替)	改修 (公認)	公認取得								平成 28 年 7 月 31 日 公認更新
10	帆山公園庭球場	統合 (集約化)	実施計画期間に方針決定	検 討					統 廃 合					基本計画期間に統廃合を実施
11	帆山公園相撲場	維持												
12	家久スポーツ公園庭球場	統合 (集約化)	実施計画期間に方針決定	検 討					統 廃 合					基本計画期間に統廃合を実施
13	家久スポーツ公園温水プール	維持												
14	家久スポーツ公園ソフトボール場	維持												平成 25 年度に防球ネット設置
15	今立中央公園多目的広場	維持	【改修】照明施設の改修	調 査・改 修										
16	今立中央公園水泳場	統合 (集約化)	【廃止】平成 25 年 4 月 1 日に廃止	廃止										平成 25 年 4 月 1 日廃止済
17	今立南部公園庭球場	統合 (集約化)	実施計画期間に方針決定	検 討					統 廃 合					実施計画期間に統廃合を実施
18	白崎公園屋内ゲートボール場	維持												
19	瓜生水と緑公園体育館	維持												
20	越前市高瀬トレーニングセンター	統合 (機能移転)	【廃止】武生中央公園体育館の改築に合わせ機能を移転し、越前市総合体育館(仮称)に複合化した後、廃止				機能移転							
21	越前市武道館	維持		検 討					改 修					施設改修(床張替え空調)
22	越前市みどりと自然の村ゲートボール場	統合 (集約化)	【廃止】実施計画期間に跡地利用の方針決定を行い、廃止	廃 止										跡地利用を検討
23	越前市みどりと自然の村テニスコート	統合 (集約化)	実施計画期間に方針決定	検 討					統 廃 合					基本計画期間に統廃合を実施
24	越前市北新庄体育館	維持												
25	越前市北日野体育館	維持												
26	越前市大虫体育館	維持												
27	越前市武生体育センター	維持												実施計画期間に耐震診断を実施
28	越前市今立体育センター	統合 (集約化)	実施計画期間に方針決定	検 討					統 廃 合					基本計画期間に統廃合を実施 (越前市粟田部体育館は、実施計画期間に耐震診断を実施)
29	越前市今立ふれあいプラザ													
30	越前市粟田部体育館													
31	越前市今立テニスコート	統合 (集約化)	実施計画期間に方針決定	検 討					統 廃 合					基本計画期間に統廃合を実施

※基本計画対象施設は、実施計画期間中を通じて市民等の意向把握、合意形成を図ります。

第5 まとめ 計画の成果と展望

1 計画の成果

○目標年次までに施設を統廃合

- ・表5-1のとおり、スポーツ施設再配置計画の実施により、スポーツ施設の数
は、現在の31施設から25施設程度と
なります。
- ・庭球場は市全体でコート数を勘案し、
利用者の利便性を損なうことなく統合
を進めます。

表5-1 再配置計画の実施による施設数の変化(後期5年間は予定)

用途	基準年の施設数	前期5年の減少数	前期5年の再配置後の施設数	前期5年の更新数	後期5年の再配置後の施設数(予定)
体育館	9施設		9施設	1施設 越前市総合体育館(仮称)	7~8施設
武道場	3施設		3施設	1施設 越前市弓道場(仮称)	3施設
屋内競技場	1施設	1施設 越前市高瀬トレーニングセンター	—		—
水泳場	3施設	1施設 今立中央公園水泳場	2施設		2施設
グラウンド	6施設		6施設		6施設
庭球場	7施設 (30面)		7施設	武生中央公園 多目的グラウンド (4面)	5施設程度 (28面程度)
屋外ゲートボール場	2施設	1施設 越前市みどりと自然の村ゲートボール場	1施設		1施設
合計	31施設	3施設	28施設	2施設	25施設程度

・表5-2のとおり、実施計画では、7施設を統合（複合化1施設、集約化3施設、機能移転3施設）し、4施設を維持（改修）します。

・機能の集約化や機能移転とあわせた統合化を実施することにより、3施設（今立中央公園水泳場、越前市みどりと自然の村ゲートボール場、越前市高瀬トレーニングセンター）を廃止します。

実施計画(前期5年間)の再配置計画の概要

再配置方針		施設数	該当施設
統合	複合化	2施設	・武生中央公園体育館 【更新】 (越前市高瀬トレーニングセンターの機能を移転し複合化) ・武生東運動公園陸上競技場 【改修】 (武生中央公園多目的グラウンドの一部機能を移転し複合化)
	集約化	3施設	・武生中央公園水泳場 【改修】 ・今立中央公園水泳場 【廃止】 ・越前市みどりと自然の村ゲートボール場 【廃止】
	機能移転	4施設	・武生中央公園野球場 【更新】 ・武生中央公園弓道場 【更新】 ・武生中央公園多目的グラウンド 【改修】 ・越前市高瀬トレーニングセンター 【廃止】
維持		2施設	・武生中央公園庭球場 【改修】 ・武生東運動公園ソフトボール場 【改修】
合計		11施設	【改修】5 【更新】3 【廃止】3

○スポーツ施設の安全安心の確保

- ・耐震性が低い施設や老朽化が進む高経年施設の更新を行うことにより、施設の安全性が確保されます。
- ・体育館を始めとしたスポーツ施設は、災害時の避難や救護、復旧の拠点としての役割を担う施設であることから、災害に強いまちづくりにも寄与することとなります。

○利用者ニーズに沿った最適配置、ソフト施策と一体での生涯スポーツの推進

- ・福井国体の開催に向け、今後5年間で重点的優先的に整備すべきスポーツ施設の整備に取り組み、その後、利用者の利便性が低下しないように施設の統廃合などを進めることにより利用者ニーズに沿った最適配置を進めることが可能となります。
- ・「越前市スポーツ推進プラン」に基づくソフト施策の展開と一体となったスポーツ施設の整備により、効果的に生涯スポーツの推進を図ります。

○維持更新費用の削減

- ・本計画では、福井国体の開催に向け、重点的優先的に施設の整備を進めるため、短期的には、整備費用が増大することになりますが、施設数の減少が人件費や維持管理費用の削減に繋がり、また、計画的に修繕を進めることにより、施設のライフサイクルコストの削減が図られることになり、長期的なスパンで見ると維持更新費用が平準化されます。

○省エネルギー機器の導入等による低炭素社会への貢献

- ・新たな施設の整備や既存施設の改修に合わせて空調などの省エネルギー機器や再生可能エネルギー機器、コージェネレーション機器の導入を押し進めることにより、光熱費などのランニングコストの削減だけでなく、低炭素社会の実現や災害によるライフラインの寸断への対応など持続可能で安全安心な地域社会の実現が期待されます。

2 今後の展望

● “自立”と“協働”による市民参画と合意形成

- ・本計画に示すスポーツ施設の再配置計画の実現には、市民の理解が欠かせません。このため、プログラムの期間を通じて市民との対話を進め、再配置に対する市民の理解促進を図ります。
- ・計画期間の中間年次に当たる福井国体終了後の本計画の見直しに向け、市民意向を反映しつつ、現時点における基本計画（平成 31 年から平成 35 年まで）の実施計画化を図ります。
- ・スポーツ施設に対する市民のニーズにきめ細かく応えるため、市民と行政の協働を推し進め、ともに知恵と力を出し合いながら、スポーツ施設の最適配置、質の高いサービスの提供に取り組めます。

● 部局横断的な連携と厳格な進捗管理の実施

- ・スポーツ施設に関連する部局や避難施設に関連する部局の横断的な連携により、スポーツ施設の最適配置の実施を推進します。

● 運営情報の収集と情報公開による問題意識の共有化

- ・施設運営の効率化を図るため、施設利用者に関する情報（団体個人利用時間帯などの属性）や統一的な基準によるコスト情報の収集を行い、分析することにより改善点を明らかにします。

● 地域スポーツ環境の充実

- ・総合型地域スポーツクラブ等における地域住民向け事業の充実など「越前市スポーツ推進プラン（平成 25 年 3 月）」を具体的に進め、スポーツ施設の活用促進を図ります。

資料編

資料1-懇話会の開催経緯

	開催日時	主な協議項目
第1回	平成25年6月11日	計画策定スケジュール 市スポーツ施設の現状と課題
第2回	平成25年8月23日	スポーツ施設再配置の基本方針
第3回	平成25年11月5日	越前市スポーツ施設再配置計画(素案)
第4回	平成26年2月3日	パブリックコメント結果説明 越前市スポーツ施設再配置計画(案)

資料2-スポーツ施設のあり方を考える懇話会 委員名簿

(敬称略)

	氏名	団体・所属等	備考
1	美濃 美雄	公益社団法人越前市体育協会会長	
2	三村 義雄	越前市社会教育委員の会委員長	
3	宮本 俊	越前市スポーツ少年団本部長	
4	中 ヒロ子	越前市スポーツ推進委員協議会会長	
5	田中 信治	越前市スポーツ推進審議会委員	
6	中島 和則	越前市教育委員会教育長	座長

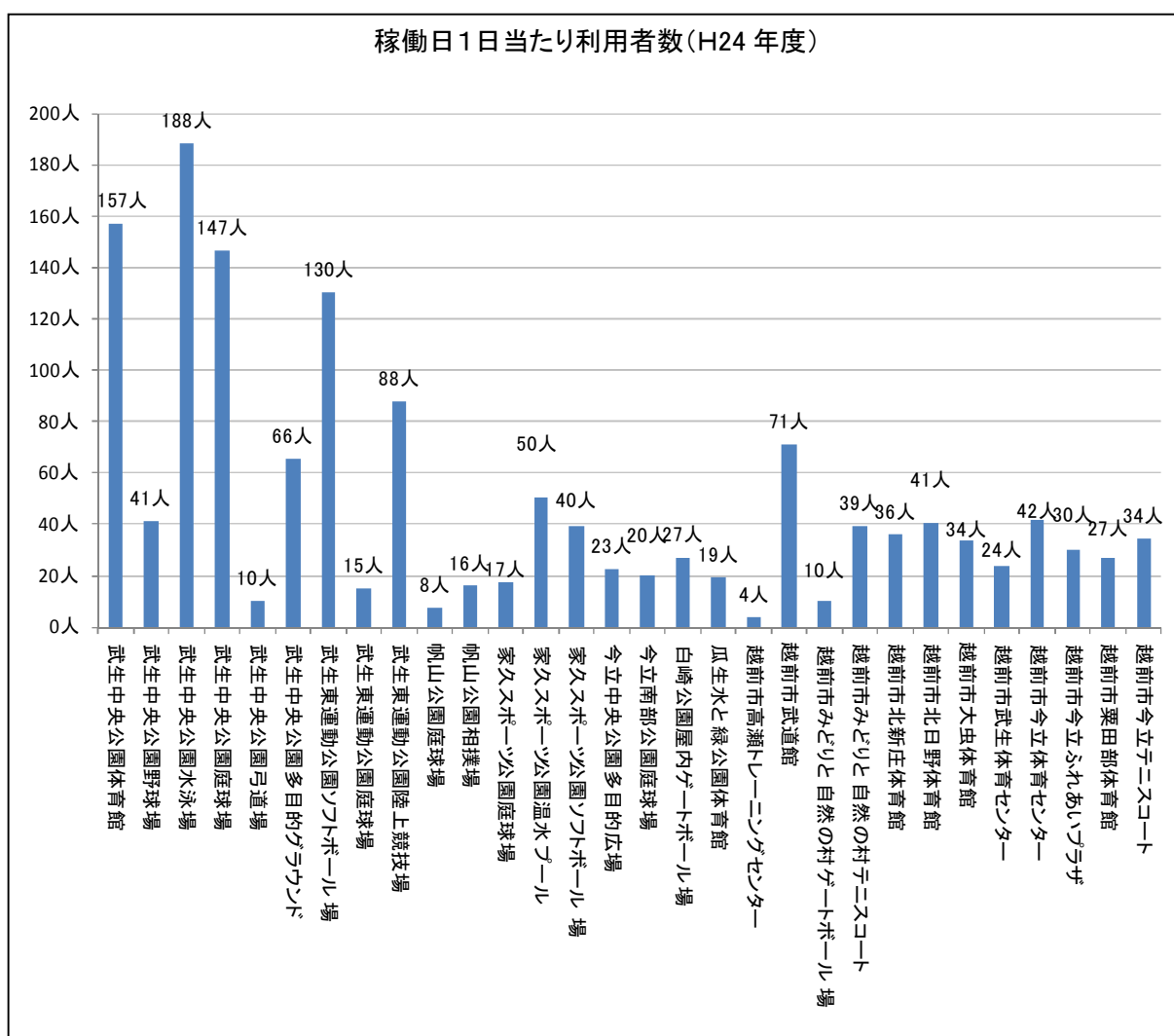
スポーツ施設の現況分析結果 資料3-利用状況(平成 24 年度実績)

No	施設名称	主な機能	稼働率				稼働1日当たりの利用者数				
			運営日数(H24)	稼働日数(H24)	稼働率(H24)	評価	利用者数(H24)	推定スポーツ人口(協会等加盟者数)	稼働1日当たり利用者数	偏差値	評価
1	武生中央公園体育館	体育館	360	359	1.00	A	56,444	3,130	157.2	68.3	A
2	武生中央公園野球場	グラウンド	264	179	0.67	B	7,427	1,500	41.5	47.3	B
3	武生中央公園水泳場	水泳場	43	41	0.95	A	7,725	45	188.4	58.9	A
4	武生中央公園庭球場	庭球場	284	284	1.00	A	41,644	680	146.6	65.5	A
5	武生中央公園弓道場	武道場	360	357	0.99	A	3,649	75	10.2	43.3	C
6	武生中央公園多目的グラウンド	グラウンド	220	203	0.92	A	13,297	1,520	65.5	50.6	B
7	武生東運動公園ソフトボール場	グラウンド	264	54	0.20	C	7,024	2,000	130.1	59.5	A
8	武生東運動公園庭球場	庭球場	264	141	0.53	C	2,108	680	15.0	43.2	C
9	武生東運動公園陸上競技場	グラウンド	264	129	0.48	C	11,314	450	87.7	53.6	B
10	帆山公園庭球場	庭球場	264	133	0.50	C	1,029	680	7.7	42.0	C
11	帆山公園相撲場	武道場	1	1	1.00	A	16	100	16.0	44.7	C
12	家久スポーツ公園庭球場	庭球場	264	156	0.59	C	2,722	680	17.4	43.6	C
13	家久スポーツ公園温水プール	水泳場	306	304	0.99	A	15,340	45	50.5	48.8	B
14	家久スポーツ公園ソフトボール場	グラウンド	264	105	0.40	C	4,149	2,000	39.5	47.0	B
15	今立中央公園多目的広場	グラウンド	264	264	1.00	A	1,198	1,520	22.6	44.7	C
16	今立中央公園水泳場	水泳場	平成 25 年 4 月 1 日から廃止								
17	今立南部公園庭球場	庭球場	264	132	0.50	C	2,636	680	20.0	44.0	C
18	白崎公園屋内ゲートボール場	ゲートボール場	307	237	0.77	B	6,433	235	27.1	50.0	B
19	瓜生水と緑公園体育館	体育館	307	233	0.76	B	4,530	3,130	19.4	45.1	B
20	越前市高瀬トレーニングセンター	屋内競技場	307	269	0.88	B	1,055	25	3.9	50.0	B
21	越前市武道館	武道場	307	296	0.96	A	21,011	485	71.0	58.1	A
22	越前市みどりと自然の村ゲートボール場	ゲートボール場	195	1	0.01	C	10	235	10.0	41.3	C
23	越前市みどりと自然の村テニスコート	庭球場	195	74	0.37	C	2,916	680	39.4	47.3	B
24	越前市北新庄体育館	体育館	305	271	0.89	B	9,752	3,130	36.0	47.9	B
25	越前市北日野体育館	体育館	351	351	1.00	A	14,222	3,130	40.5	48.7	B
26	越前市大虫体育館	体育館	345	345	1.00	A	11,691	3,130	33.9	47.6	B
27	越前市武生体育センター	体育館	307	283	0.92	A	6,805	3,130	24.0	45.9	B
28	越前市今立体育センター	体育館	337	337	1.00	A	14,181	3,130	42.1	48.9	B
29	越前市今立ふれあいプラザ	体育館	360	277	0.77	B	8,242	3,130	29.8	46.9	B
30	越前市粟田部体育館	体育館	360	322	0.89	B	8,558	3,130	26.6	46.3	B
31	越前市今立テニスコート	庭球場	264	115	0.43	C	3,941	680	34.3	46.5	B

推定スポーツ人口の算出における機能別競技種目

体育館:体操、卓球、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、ハンドボール、フェンシング、綱引き、エスキーテニス 弓道場:弓道
相撲場:相撲 武道場:柔道、剣道、空手、銃剣道、レスリング ゲートボール場:ゲートボール トレーニングセンター:ウエイトリフティング、ボクシング、レスリング 水泳場:水泳 野球場:野球 多目的グラウンド:サッカー、ホッケー
ソフトボール場:ソフトボール 陸上競技場:陸上 庭球場:ソフトテニス、硬式テニス

資料4-稼働日1日当たり利用者数(平成24年度実績)

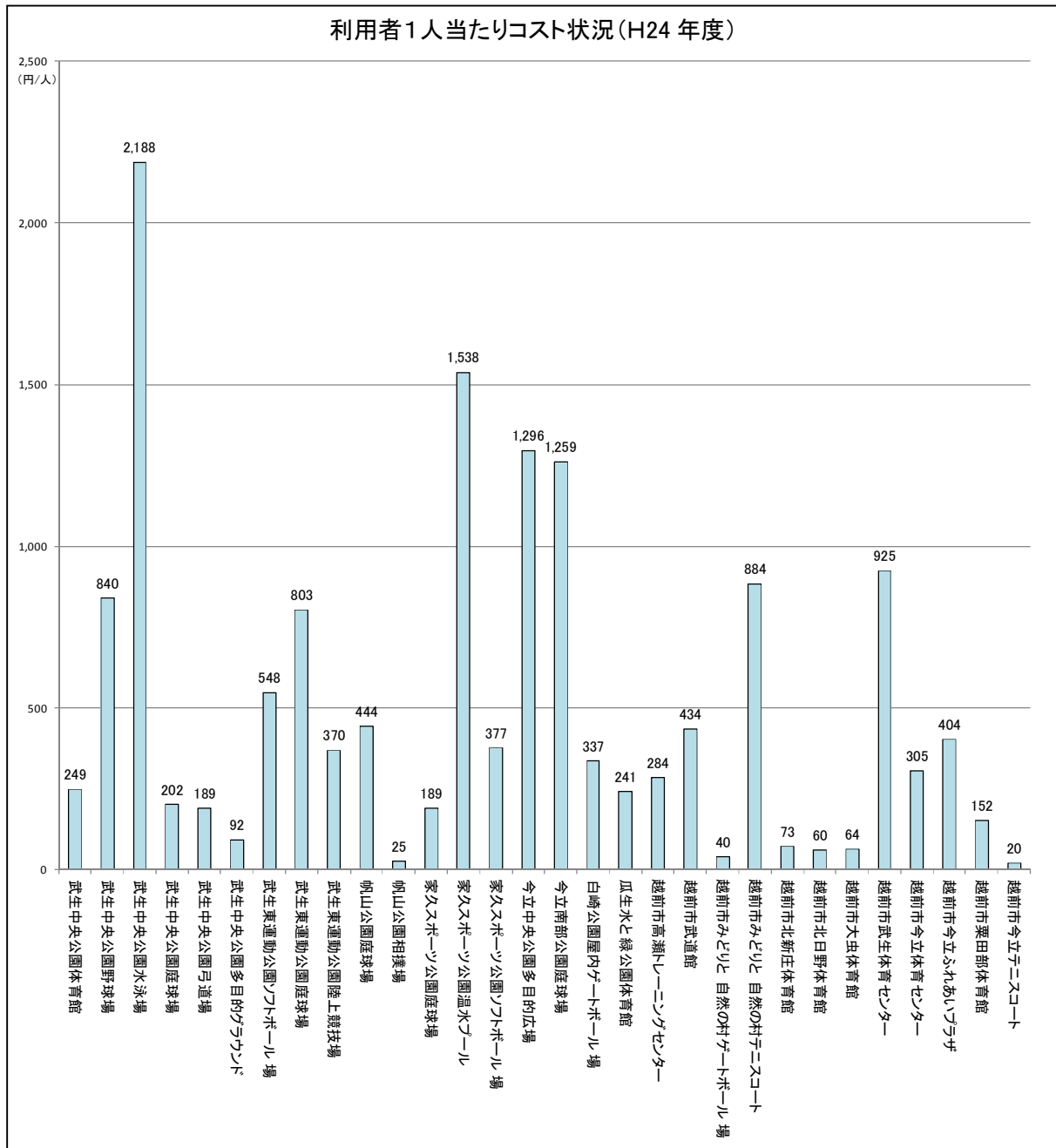


※今立中央公園プールは平成24年4月1日から休止のため省略している。

資料6-利用者1人当たりのコスト状況(平成24年度実績)

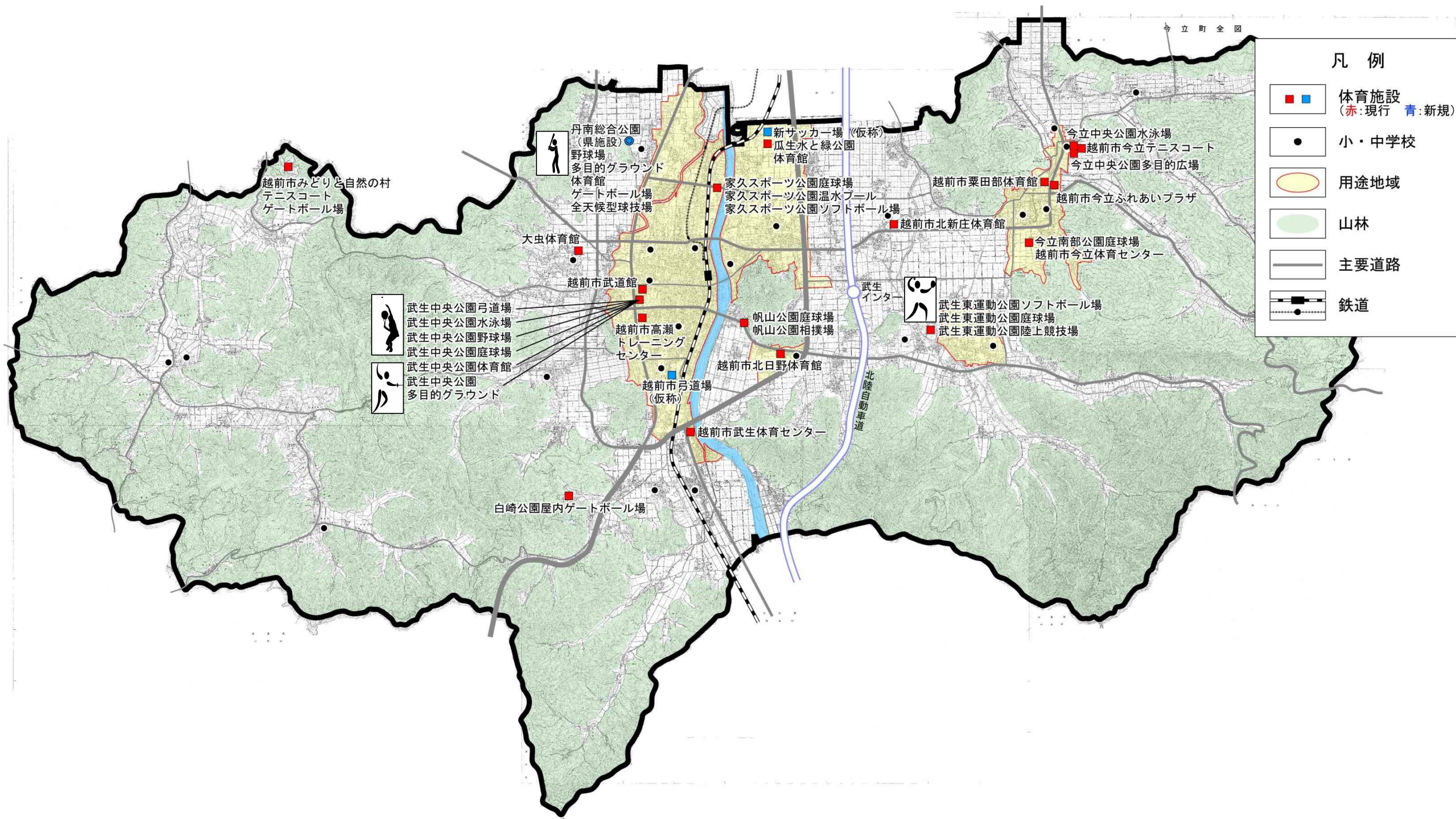
No	施設名称	主な機能	トータルコスト (円)	利用者数 (人)	利用者1人 当たりコスト (円/人)	偏差値	評価
1	武生中央公園体育館	体育館	14,037,734	56,444	248	50.2	B
2	武生中央公園野球場	グラウンド	6,236,395	7,427	840	59.9	C
3	武生中央公園水泳場	水泳場	16,900,420	7,725	2,188	62.6	C
4	武生中央公園庭球場	庭球場	8,413,848	41,644	202	48.0	B
5	武生中央公園弓道場	武道場	690,644	3,649	189	41.6	A
6	武生中央公園多目的グラウンド	グラウンド	1,220,425	13,297	92	42.3	A
7	武生東運動公園ソフトボール場	グラウンド	3,849,954	7,024	548	53.1	B
8	武生東運動公園庭球場	庭球場	1,692,319	2,108	803	60.4	C
9	武生東運動公園陸上競技場	グラウンド	4,187,792	11,314	370	48.8	B
10	帆山公園庭球場	庭球場	456,626	1,029	444	53.0	B
11	帆山公園相撲場	武道場	402	16	25	34.9	A
12	家久スポーツ公園庭球場	庭球場	515,611	2,722	189	47.7	B
13	家久スポーツ公園温水プール	水泳場	23,588,973	15,340	1,538	43.6	A
14	家久スポーツ公園ソフトボール場	グラウンド	1,563,595	4,149	377	49.0	B
15	今立中央公園多目的広場	グラウンド	1,552,586	1,198	1,296	70.7	C
16	今立中央公園水泳場	平成24年4月1日から休止					
17	今立南部公園庭球場	庭球場	3,319,717	2,636	1,259	69.8	C
18	白崎公園屋内ゲートボール場	ゲートボール場	2,165,812	6,433	337	50.0	B
19	瓜生水と緑公園体育館	体育館	1,091,423	4,530	241	49.9	B
20	越前市高瀬トレーニングセンター	屋内競技場	299,830	1,055	284	50.0	B
21	越前市武道館	武道場	9,125,101	21,011	434	51.5	B
22	越前市みどり自然の村ゲートボール場	ゲートボール場	402	10	40	35.9	A
23	越前市みどり自然の村テニスコート	庭球場	2,578,358	2,916	884	62.1	C
24	越前市北新庄体育館	体育館	709,320	9,752	73	43.4	A
25	越前市北日野体育館	体育館	858,402	14,222	60	42.9	A
26	越前市大虫体育館	体育館	747,760	11,691	64	43.0	A
27	越前市武生体育センター	体育館	6,295,704	6,805	925	76.5	C
28	越前市今立体育センター	体育館	4,318,632	14,181	305	52.4	B
29	越前市今立ふれあいプラザ	体育館	3,328,270	8,242	404	56.2	C
30	越前市粟田部体育館	体育館	1,302,747	8,558	152	46.5	B
31	越前市今立テニスコート	庭球場	80,405	3,941	20	44.2	A

資料7-利用者1人当たりのコスト状況(平成 24 年度実績)



※今立中央公園プールは平成 24 年 4 月 1 日から休止のため省略している。

資料8-スポーツ施設配置状況図



資料9-用語解説

●再配置

- ・施設のあり方について抜本的な見直しを行い、既存施設の活用を基本に、周辺の同種施設の配置状況を勘案しながら、更新に合わせて複合化や集約化により適正な配置及び効率的な管理運営を実現すること。

●維持

- ・老朽化している建物の部位や整備を計画的に更新し、建物の供用可能期間を伸ばすことにより建替えに伴う大規模な財政支出を削減する。

●統合

- ・施設の集約化や複合化などにより、ニーズの変化に対応し市民サービスの質を向上させ施設の総保有量を縮減することにより、施設の運営や維持、更新に関する費用負担を軽減させる。

●複合化

- ・スポーツ施設に複数の異なる競技の機能を併せ持たせること。
- ・施設の維持管理運営の効率化や異種競技の施設利用者同士の交流などの効果が見込まれる。

●集約化

- ・分散して立地する同種のスポーツ施設の機能まとめていくこと。
- ・利用実態や既存施設の配置状況を勘案しながら集約化を進めることにより、利用者の利便性を確保しながら効率的な維持管理運営を行う事が可能となる。

●機能移転

- ・施設の機能を他の施設に移し、サービスの確保を図る。建物は、有効活用や取壊しを行う。

●廃止

- ・現行の機能を廃し、建物については閉鎖、取壊し、譲渡を行う。

●更新

- ・劣化した部位、部材の機器類の性能及び機能を原状回復すること

●改修

- ・劣化した部位・部材の機器類の性能及び機能を現状(初期状態)を超えて改善すること。

●改築

- ・建築基準法上、建築とは建築物を新築、増築、改築又は、移転することをいい、改築は、建築物又は建築物の部分、従前と同様の用途・構造・規模のものに建て替えること。

●修繕

- ・建物の機能低下の速度を弱め長持ちさせること。

●稼働率

- ・条例で定められた施設の運営日数に対する実際に施設が利用された日数の割合のこと。

●機能的水準

- ・施設の機能性や利便性に関する水準のこと。

●旧耐震基準

- ・建築物の設計において適用される地震に耐えることのできる構造の基準で、昭和 56(1981)年 5 月 31 日までの建築確認において適用されていた基準のこと。「震度5程度の地震に対して、即座に建物が崩壊しないこと」が前提となっていた。

●計画保全

- ・施設を維持するために必要な点検、修繕、改修、更新を劣化が起こる前に計画的に実施する「予防保全」である。

●コストパフォーマンス

- ・施設によって得られる社会的効用に対する施設での事業運営や施設維持に要するコストの割合のこと。

●コージェネレーション

- ・エネルギー供給システムの方式のひとつで、熱と電力とを同時に供給するシステムのこと。例えば、ガスタービンで発電する一方、その排熱を利用して給湯空調などの熱需要を賄う。

●省エネルギー機器

- ・施設で使用される空調設備や給湯設備などのうち、省エネルギー性能の高い機器のこと。

●耐震診断

- ・建築物が地震に対してどの程度耐える力を有しているか判定する調査のこと。

●耐用年数

- ・建築物等が使用に耐えなくなるまでの年数または利用可能年数のこと。
- ・本計画では、恣意性を排除して資産の種類や構造、用途別に耐用年数を詳細に定めた法定耐用年数(「減価償却資産の耐用年数」)を参考に老朽化状況の評価基準を設定している。

●低炭素社会

- ・社会に多大な影響をもたらす地球温暖化の緩和を目的として、その原因である温室効果ガスのうち、大きな割合を占める二酸化炭素の排出が少ない社会の構築を目指すこと。

●トータルコスト

- ・施設の事業運営に要する人件費や消耗品費、施設の維持に要する修繕費や光熱水費、管理費などの費用の全体額のこと。

●バリアフリー

- ・身障者や高齢者等の社会的弱者が、社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障がいや、精神的な障壁が取り除かれた状態のこと。

●PDCAサイクル

- ・Plan(計画)、Do(実施実行)、Check(点検評価)、Action(処置改善)の4段階の頭文字をつなげたものでこれを繰り返し、サイクルを向上(スパイラル アップ)させることによって継続的に業務を改善しようとする事業活動における管理システムのこと。

●平準化

- ・施設の建替えや大規模改修の時期が特定の期間に集中して費用がかさみ財政を圧迫することを防ぐため、なるべく均等に分散させること。
- ・市債の発行により費用を調達し、複数の年度をかけて償還金の返還を行う事によっても平準化が可能となる。

●目視点検

- ・施設の状態を外部から人の目によって観察して点検すること。

●ライフサイクルコスト

- ・施設の建設費用だけでなく、企画 設計施工運用 維持管理補修改造解体廃棄に至るまでに必要なトータルコストのこと。

●ランニングコスト

- ・施設の建物や設備の保守、管理に要する費用のこと。